

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2012	インターン番号	AP050	タイプ	長期
派遣国	ベトナム社会主義共和国		派遣都市	ホーチミン	
受入機関	Saigon Water Corporation (SAWACO)				
受入機関概要 (事業内容等)	ホーチミン市水道総公社 従業員数 約3,700人 給水人口 約650万人 給水量 約140万m ³ (データは2012年当時のものです。)				
派遣期間	2012年9月5日～2012年11月30日				
現在の所属先	株式会社 日立製作所		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	インフラシステム社海外大規模プロジェクト統括本部		所在地	東京都	
区分	大企業		性別	男性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

弊社では水道インフラ事業の海外展開を推進していますが、海外では機器の供給だけでなくその運営にも参画する場合があります。日本国内における水道事業は各自治体が主体となって行っているため民間企業としてはその運営方法や事業の全体像を把握することは難しく、我々の知識は不足しています。水道事業体の中での研修が可能ということで、その課題や要点が掴めればと思い参加しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

受入機関本社にて全体的な計画や運営に関する説明、また配水管やメータといった機器に関する技術的な解説を各部署の方から実施して頂き、必要な知識を得ました。その上で、各浄水場やダム、配水関連施設、料金徴収を行っている子会社を訪問し、その都度質疑をすることで、事業の理解を深めることが出来ました。またベトナム内他都市の水道公社視察を行うことで全体像の把握も行いました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

ベトナムの水道事業に関するヒト、モノ、カネという全体の流れを座学だけでなく体験として理解できたことは非常に大きかったと感じます。事業をする上で何に困っていて、どういう計画を立てているのかを現場の方々とは話出来たことで、海外へ展開する際の要点がわかった部分もあります。

個人としては、3ヶ月間という短い間でしたが新興国に住むということが如何なることかということをもっと学ぶことが出来ました。例えば大気汚染の具合や住環境、現地の生活水準、更には国が発展しているという高揚感、現地で生活してみなければわからないことだと思います。

また、長期滞在をすることで、外からの視点で日本を見るようになったことや、世界情勢等が身近なものであるという認識をするようになったことは変化として挙げられると思います。これは実習から帰国した後から感じることであり、視野が少し広がったという印象です。

インターンシップ風景



水道メータ検査場訪問の様子



現地技術者との議論の様子

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

インターンシップ後は、実習で得た水道事業運営の全体像や問題点を元に、海外展開に向けた新規事業の提案やソリューションシステムの説明を東南アジアを中心に行っていました。いくつかの案件は現在も進行中ですが、私個人としては部署移動となり、現在はイラク共和国バスラ県の浄水場建設プロジェクトに従事しております。

本案件は、経済産業省が展開するインフラ輸出の取り組みと連携した事業活動の一環であり、フランス、エジプトの企業と共同企業体を構成し2014年2月から工事を開始しているものです。イラク南部の中心地である同国第二の都市バスラでは、既存の浄水場の給水能力では供給が追いついておらず、水インフラの整備が急務な状況です。こうしたイラクの浄水供給状況の改善を図ることを目的として、塩分濃度の高い河川水を原水とした淡水化設備の建設を行っています。

私はその電気部門の主任として参画していますが、実習時に学んだ水道技術の知識や海外生活の経験をフル活用して何とか対応している状況です。日々の業務では、納入先の自治体だけでなく、パートナー企業をはじめ海外の多くの関係先とのコミュニケーションが必要となります。私個人が接しているだけでも10カ国程です。それぞれに宗教や生活習慣、性格があり、相手の状況を思いながら仕事を進めています。インターンシップ時に学んだ異文化コミュニケーションの知識やベトナムでのその実践経験は、非常に有効なものとなっています。Trial & Errorで学んでいることも多くありますが、海外での実習経験という基礎があったからこそ気づく部分も多くあるものと思います。

当時の実習から3年経った今にして思えば、渡航前研修時に教えて頂き、深く考えた様々なこと、例えばグローバル化とインターナショナル化の違いは何か、グローバル人材に必要な資質とは何か、といったことが今の私を形成する上では重要であったのだと感じます。日々の業務を行っているだけではなかなか気づかないことを、実習という時間を使って学べたことは貴重であり、そこで一度考えたことは現在の業務にも少なからず活きていると感じます。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

本インターンシップに何を求めるか、どう活かすかは企業や個人の考え方次第で良いのだと思います。同じ実習生として海外志向の強い若手の方々が数多く参加していますので、そうしたインターン生との接触は個人としても刺激になります。新興国等での滞在は不安もあるかと思いますが、実習にあたっては、METI*1、JETRO*2、HIDA*3の方々の支援に加え、場所によっては現地に協力機関があり、サポート体制は充分整っていますので安心して参加出来ると思います。

皆様のご健闘をお祈り致します。

(*1 METI: 経済産業省 *2 JETRO:独立行政法人日本貿易振興機構 *3 HIDA:一般財団法人海外産業人材育成協会)

現在の活躍の様子



インドネシアでの現地調査の様子

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2012	インターン番号	AP118	タイプ	長期
派遣国	ベトナム社会主義共和国			派遣都市	ホーチミン
受入機関	Fuji Computer Network Co., Ltd (Fujinet)				
受入機関概要 (事業内容等)	設立 2000年9月 社員数 約250名(派遣時) 日本およびベトナム国外からのソフトウェア受託開発				
派遣期間	2012年9月5日～2012年12月1日				
現在の所属先	日立製作所通信ネットワーク事業部 (但、日立情報通信エンジニアリング出向中)		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	IPテレフォニー本部 ソフトウェア開発部		所在地	神奈川県	
区分	大企業		性別	男性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

近年ソフトウェアの開発は国内に限らず、多国籍化しておりその調査および経験を積まないかと会社からの打診があり、応募致しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

受け入れ先機関では、日本から受注したソフトウェア開発を現地作業者と一緒に開発を行いました。また、市場調査においてはソフトウェア企業の訪問や交流会参加による情報収集を行いました。円滑なコミュニケーションの実現の為、現地大学(HUFLIT)へ通い、ベトナム語の習得に努めました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

- ・ベトナム企業のセキュリティ管理、CMMIの取り組み、開発プロセスについて学ぶことができました。
- ・ベトナムのソフトウェア産業について、市場調査により業界動向および有力企業の情報を得る事が出来ました。
- ・受入先機関およびベトナムの各機構においてコミュニケーションネットワークを構築する事ができました。
- ・現地の設計者と共同で作業する事により、コミュニケーションの能力向上を図る事ができました。

インターンシップ風景



受け入れ先企業にて撮影

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

- ・オフショア開発による注意点および現地コネクションを社内で共有し、現地受入れ先ではありませんでしたが、ベトナムでのオフショアを開始致しました。
- ・現状の実務は国内主体の事業の為、派遣国との直接的関わりはありませんが、国外からの来客の際などは本インターンシップで得たコミュニケーション能力を活用し、事業説明などを行っております。
- ・個人としては、日立国際奨学財団によるベトナム人留学生のホストファミリーとして、ボランティア活動に参加しており、日本での生活をサポートしています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

現地では、日本では体験できない事を多く経験することが出来ました。比較的自由に実習計画を組める為、何をするのか、何を学ぶのかという目的意識を持ち、その目標に向かい計画を立てて研修に臨むことが、成功する重要なポイントだと思います。

HIDA、JETRO、受入機関等、協力してくれる方々が多く、やりたいことができるのが本研修の大きなメリットだと思いますので、是非参加して有意義な体験をしてください。

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2012年度	インターン番号	AP048	タイプ	長期
派遣国	インド			派遣都市	チェンナイ
受入機関	Orient Green Power Company Limited				
受入機関概要 (事業内容等)	再生可能エネルギー(風力、小水力、バイオマス)発電による売電事業				
派遣期間	2012/9/5 ~ 2013/2/22				
現在の所属先	株式会社日立製作所			当時の所属先	同左
現在の所属部署	産業プラント事業部			所在地	東京
区分	大企業			性別	男性

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

環境技術など、インド国内での活用の可能性を検討するため、インターンシップに参加してビジネスチャンスを探ってくるよう上司から話があり、応募しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

派遣期間のうち、2ヶ月間はチェンナイにある受入機関のオフィスでバイオマス発電に関する法律やビジネスの仕組みを各部署の担当者から学びました。その後の4ヶ月間は内陸にある都市に移動し、実稼動しているバイオマス発電所に通い、視察しました。所長や運転員にインタビューして課題点をまとめ、効率的な稼動に向けた提案を行いました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

効率化のためには日本の技術や機器など導入すればいいだけではなく、コスト面や雇用面を考慮すると、あえて作業員を雇用したり、機器に関しても最新ではなく必要十分な機能を満たしていればよい場合もあり得ることを、現地で直接インタビューすることで知ることができました。現地の事情を踏まえた提案でなければならないことはインターンシップ参加前から把握していましたが、コスト感覚が日本と違うことを肌で実感でき、インターンシップに参加した意義があったと考えています。

インターンシップ風景



バイオマス発電所近景



バイオマス発電の燃料となるヤシ殻の投入作業体験

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

以前まではインドというと所属部内でも未知の領域で、いろいろと誤解もあったと思います。しかし帰国後に社内報告会を行い、“予想通り”な面、“予想外”の面を示した結果、ハードルが下がったようで、インドの環境分野に関して技術的なソリューションを提供できるか検討するミッションが立ち上がりました。私自身は現在、インドに関係する業務には就いていませんが、私のインターンシップ参加をきっかけに、ミッションは継続しており、現在も現地機関との接触は続いています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

海外でのインターンシップとなると、日本とは異なる言語、文化、商習慣など、ハードルは数多く存在します。ですがHIDAの方々をはじめ、関係機関のサポートはありますので、思い切って参加してみたいかがでしょうか。

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013	インターン番号	KB006	タイプ	公募型
派遣国	バングラデシュ人民共和国			派遣都市	ダッカ
受入機関	Bangladesh Railway				
受入機関概要 (事業内容等)	バングラデシュにおける最大政府系機関の一つ、国内の鉄道運營業務を担う省の一つである。				
派遣期間	2013年9月24日～2014年2月28日				
現在の所属先	オランダ、ワーヘニンゲン大学院修士		当時の所属先	千葉大学園芸学部	
現在の所属部署	開発経済学専攻		所在地	オランダ	
区分	学生		性別	男	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

大学学部3年だった当時、アジア最貧国と呼ばれていたバングラデシュに渡り、国の現状を自分の目で見てみたかったというのがまずありました。加えて、政府系の機関を希望し、途上国における開発業務が行政主導でどのように遂行されているのか触れたかったという思いもあり、バングラデシュ鉄道を選びました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

まずは各部署をまわりながら各職員から業務内容についてレクチャーをうけるような形でした。省レベルの巨大機関だったということもあり、各地方のオフィスにも出張させていただく機会に恵まれたのも特徴だと思います。途中からは自分の興味が出た分野に重点的に関わられるよう、インターンの内容を変えながら時にJICAやアジア開発銀行との会議などに参加させてもらっていました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

第一にインターンシップでの数々の出張やディスカッションを通し、バングラデシュでの問題に実際に触れ、最貧国と呼ばれる国で何が起きているのかを実感できたということが大きいと思います。現地に出向く新興国経験は、その後の学部での勉学のみならず、今現在開発修士の勉学においても役に立っています。バングラデシュという国の商習慣やイスラム教の文化を体験したことも、今後バングラデシュという国で業務に携わる上では欠かせない経験になったように思います。加えて、インターンシップ先が政府系機関だったということもあり、新興国の行政で起きている様々な問題、日本を含めた各国の援助機関との関係性など、外からは見えない問題にも精通することができたのは、本インターンシップならではの経験だと思います。

インターンシップ風景



イード犠牲祭にて



朝の通勤ラッシュ(鉄道)

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

インターンシップ終了後すぐに日本で就職活動が始まりましたが、新興国政府系機関におけるインターンという珍しい経験は多くの場面で評価されました。就職活動先も、インターン中に興味を持った業界や企業に絞った、ということもあり、インターンを通してやりたいこと、興味のある分野の方向性がまとまり、スムーズに進んだ、という側面もあると思います。

私は最終的に就職活動を止め、海外修士留学を目指して大学院への出願、奨学金への応募に移っていきました。最終的に大学院・奨学金ともに合格することができたのも、インターンでの経験に裏付けられた研究計画が評価されたのではないかと、思います。卒業時にあたっては千葉大学(出身大学)より学長表彰をいただくことができ、インターンシップ経験の評価が加味された、と聞いています。

学部卒業後は、大学院への9月入学までの期間を使用して、バンコクにある国連農業食糧機関(FAO)でインターンシップをさせていただき、その際もバングラデシュでの経験から、マイクロファイナンスに関する業務に携わらせていただきました。マイクロファイナンス機関への聞き取り調査にあたっては、インターンシップを通して知り合ったバングラデシュ人の友人を頼ることもでき、当時のネットワークを活用させていただくこと場面もありました。

修士留学を目指すきっかけとなったのも、バングラデシュ滞在中にビジネス視点からの新興国開発、というものに触れたこと、マイクロファイナンス(農村金融)という学問/プロジェクトに出会えたことからでした。今はオランダのワーヘニンゲン大学で農業経済学を専攻としながら修士留学をしており、今後マイクロファイナンスに関する研究論文を書きたいと考えています。

今いる大学院にも多くのバングラデシュ人が研究留学をしているので、彼らと話すきっかけもインターンですし、授業にあたっては、オランダの大学院ということもあり南アジアでの業務経験を持った学生は少なく、バングラデシュでの経験を話すことは授業への参加にあたって役に立っています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

今振り返ると、インターンシップは様々な「きっかけ」の場なのではないかと思います。本インターンシップだからこそつながることができた現地の関連機関(特に政府系機関)や、知り合うことができた職員・友人のおかげで視野が大きく広がり、将来仕事にしたいことや、もっと学びたいと思うものに出会うことができました。私にもこれが最善の選択だったのかはまだわかりませんが、バングラデシュでの本インターンを通して道が変わり、今こうして修士留学していることを嬉しく思います。何かを変えたり、視野を広げてみる「きっかけ」作りに、是非本インターンを活用することをお勧めいたします。

現在の活躍の様子



オランダ・ワーヘニンゲン大学



留学先でのバングラデシュ人の学生たちと

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013年度	インターン番号	TA204	タイプ	提案型
派遣国	ウガンダ共和国			派遣都市	カンパラ
受入機関	Phenix Logistics (Uganda) LTD				
受入機関概要 (事業内容等)	ウガンダオーガニックコットンを原料としたT-シャツ、Y-シャツを製造販売する会社				
派遣期間	2013年12月2日～2014年2月28日				
現在の所属先	株式会社スマイリーアース			当時の所属先	同じ
現在の所属部署	取締役			所在地	大阪
区分				性別	男

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

JETROのSMSでこの事業を知りました。私のために国が用意した事業だと確信し応募しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

PHENIX社が抱えていた販路促進のために、製造開発事業部にて現場レベルの底上げに努めました。インターンシップ事業以前には製造できなかったデニム生地を作るための太い糸(太番手糸)を製造するための技術移転を行いました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

ウガンダの文化や生活習慣など現地ではできない経験を得ることができた。

インターンシップ前、インターンシップ後で私自身の中でのウガンダとの向き合い方で大きく変わった事があります。私自身が現場を知り、事業の意味を知ったことで仕事に対し「誇り」というものを持つことができました。

提案型インターンシップを行えたことで、現地現場で働く方々との関わりと絆を構築出来たことが最大のメリットであったように感じています。

言葉、人種、宗教という違いがあっても、手を取って目を見て、うたえ合うことで人は相手を理解し合えるという、学校の教科書に載っていない事柄を体験し経験できたことは、本当に今の私の礎となっています。本当に、参加してよかった。その言葉しかありません。

インターンシップ風景



オーガニックコットン農場視察



インターンシップ最終日

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

インターンシップを経験し、自信をつけることができました。
そのおかげで、どこへ営業へ行っても訪問先企業の方々と堂々と向き合うことができました。
所属している株式会社スマイリーアースの営業として
営業成績が大幅に伸び、お取り組み先の企業様も新規開拓できました。

私自身の成長に繋がった要因の一つとして
ウガンダのオーガニックコットンと
現地で働く人々と、その人たちの努力を知れた事
「知る」事によって
私は、
私自身の背中に、常にウガンダを感じれるようになりました。

ウガンダを背負い、家業継承という使命を背負う事で
私の心は大きく成長できたように思っています。

今後

ウガンダと日本を繋ぐためのプロジェクトに関わっていく事が決まっています。
その事業においては、業務主任者としてプロジェクトに携わって行きます。
インターンシップで経験し、学んだこと次の事業現場で生かしていくがインターンシップを経験した者の
使命だと感じています。
「海外即戦力インターンシップ事業」に参加したインターン生として
日本国の海外事業の即戦力となるための努力を、これからも継続し行っていきたいと思っております。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

私たちが暮らす日本の未来の可能性を広げるために、やる気のある若者にチャンスが与えられている
事業「海外即戦力インターンシップ事業」。
この事業に参加することで、自分自身の可能性を広げ、世界を視野に入れた目標を立てることができる
経験値を得ることができます。
自分自身を信じ、トライして下さい。インターンシップが終わるころには、何かを得ているはずです。

現在の活躍の様子



ウガンダの農法を日本で試みながら、品質向上へのヒントを探る。



ウガンダ北部でのフィールドワーク
農法の知識を共有し、品質向上を共に目指している。

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013年度	インターン番号	KB011	タイプ	公募型
派遣国	ミャンマー連邦共和国			派遣都市	ヤンゴン
受入機関	Republic of the Union of Myanmar Federation of Chambers of Commerce and Industry (UMFCCI)				
受入機関概要 (事業内容等)	・ミャンマーの民間企業約3万社が加盟する総合民間経済団体。ミャンマーの民間部門を代表し、政府への政策提案。・ローカル人材の知識・技能習得のための研修の提供。・海外経済団体との共同会議の開催等。				
派遣期間	2013年9月18日～2014年2月28日				
現在の所属先	立命館大学	当時の所属先	同左		
現在の所属部署	国際関係学部	所在地			
区分	学生	性別	男		

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

私は「将来、発展途上国の開発援助に携わりたい」という夢に向け、本インターンシップで自らの能力を高めたいと思って応募しました。高めたかった能力は、①文化をとわず発揮できるリーダーシップ能力と、②将来の開発業界を俯瞰する広い見識です。所属先では、自らがリーダーシップを取って組織の課題を解決する過程を通じて、これらの能力を実践的に身に付けたいと考えていました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

派遣先では人材育成部門に所属し、ミャンマー人に向けた研修のサポートを行いました。与えられた業務に加えて、大学生向けの研修の企画立案から実施まで指揮を執りました。会員企業の利益に結びつき、且つ自分の能力も発揮できる分野として提案したところ承認され、結果として25名のミャンマー人大学生に2日間の研修を提供できました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

参加前に目標としていた、自ら組織の課題を解決することが実行に移せた点が、良かったです。具体的には、大学生向けの研修を実施し、受入先およびミャンマーの人材育成分野に自分だからこそできる付加価値を提供できました。

一方、業務補助業務が中心になり、開発業界に関して以前より広い視野が身に付いたとは言い難いです。その代わりとして、人材育成という開発援助の現場での体験ができ、業務の流れ、可能性や課題への理解が深まった。

また困難を乗り越える柔軟性が身に付きました。例えば、Super Visorの二度の交代により、信頼関係を再構築する必要がありました。同僚に対する細かい気遣いを忘れない、与えられた仕事を全力でこなし可能な限りの付加価値をつける、等の姿勢を徹底してゼロから信頼を勝ち得ていくという経験ができました。



研修受講生の工場見学に同行した際の様子



大学生向け講義の先生と参加者と

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

私は現在、日本ミャンマー学生会議(略称IDFC)を設立し、代表として「日ミャンマーの学生自らが交流機会を創る」というビジョンのもと活動しています。2014年12月には、初の会議をヤンゴン大学で開催することができ、日本人学生15名・ミャンマー人学生15名が、1週間生活を共にしながら両国の社会課題を議論しあう場を実現しました。現在も12人の日本人・ミャンマー人混合のチームを率いて、第2回を2015年2月に実施すべく奮闘中です。

すべてのきっかけは、本インターンシップで得た“人との出会い”でした。前ページで記載した大学生向け企画のお礼として、私はミャンマーの3大学に招かれました。そこでミャンマー人学生たちから熱烈的な国際交流へのニーズを聞き、学生会議のアイデアを得たのでした。

アイデアの実現に漕ぎ着ける過程では、いくつもの困難がありました。動かないミャンマー政府からの承認を如何に得るか、両国の学生が共通で興味をもてるプログラムはなにか・・・等々、頭を悩ませました。それらはインターンシップの経験があったからこそ乗り越えられたと思います。同僚との交流で学んだ「ミャンマー文化への深い理解」、リーダーとして大学生向け研修を立ち上げる過程で鍛えられた「柔軟な課題解決力」が特に役に立ちました。結果的に、ミャンマー最高学府であるヤンゴン大学、インターン先のUMFCCIなど、現地機関の理解と賛同を得て、実行に漕ぎ着けました。

来年4月からは日系民間企業で働きます。選択の背景として、同時期に派遣された社会人インターンの方の背中を見て、発展途上国の開発における民間セクターの重要性を感じたこと、そして自分自身がインターンを通して収益化に関して経験不足・アイデア不足を痛感したことがありました。

30歳までにはミャンマーで起業し、お客さんとなるミャンマーの人々、自社の社員、日本とミャンマーの社会、に貢献する「三方良し」の事業を実現したいという夢を描いています。もちろん(ミャンマーでそうであったように)この先の出会いによって新しい夢ができるかもしれませんが、いずれの道に進もうとも、インターンで得た能力を生かしながら社会に求められる事業を自ら生み出していきたいです！

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

学生にとっても短くはない期間です。その期間、日本にいたらできることを犠牲にしなくてははいけません。就職活動のため、それだけの目的なら日本でインターンをしたほうが近道かもしれません。

けれども、総じて私は海外インターンシップへの参加をお勧めします。学生という枠をはずされて自分の無力さを痛感したり、日本と違う文化の違いに苛立ったり、海外インターンシップだからこそ体感できた苦勞。そして動き続けたら、最後にちょっと実感できた自分の成長。それらを与えてくれた本インターンシップ事業には本当に感謝しています。少しでも迷っている方には挑戦していただけたらと思います。

現在の活躍の様子



第1回日本ミャンマー学生会議(略称IDFC)の参加者30名と運営メンバー12名と。

「日ミャンマーの学生自らが交流機会を創る」というアイデアが現実になった瞬間でした！

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013	インターン番号	KB085	タイプ	公募型
派遣国	インドネシア共和国			派遣都市	ジャカルタ
受入機関	PT. Adaro Power				
受入機関概要 (事業内容等)	1992年創業、資本金約800億円、インドネシア第2位の石炭会社(当時のデータ)を母体とし、石炭火力を中心とする発電事業を展開				
派遣期間	2013年9月18日 ~ 2014年2月28日				
現在の所属先	株式会社IHI		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	ソリューション統括本部 ソリューション営業部		所在地	東京都	
区分	大企業		性別	女性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

当時は石炭火力発電設備の海外営業を担当しており、有望市場であるインドネシア企業への派遣について上司からお話がありました。燃料サプライヤーであり、IPP事業者であるAdaro社の視点から、石炭火力市場についての理解を深めたいと考え、インターンシップへ参加しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

IPP事業会社のBusiness Developmentへ配属されました。カリマンタン島の炭鉱や発電所等での研修によってAdaro社の事業理解を深めた後に、国内外のIPP案件における経済性・リスク分析やパートナーとの交渉に従事しました。また、派遣先の上司と協議しながら、派遣期間を通じてインドネシアのPPP事業をテーマとする論文の作成に取り組みました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

炭鉱や発電所での現場研修、および実際の発電事業案件のサポートや社内外様々な方々とのディスカッション等を通して、IPP事業のみならずエネルギー事業全般について、幅広く理解を深めることができました。燃料サプライヤー・発電事業者の視点を学べたことは、メーカーである所属企業のビジネスチャンス検討にも役立ち、所属企業・インターン先企業との関係強化にも貢献することができたと考えます。また個人としても、インターン先でのグループワークや社内外での交渉・プレゼンテーションなどの実践を通して、新興国ビジネスに必要なスキルを学ぶことができたとともに、これから強化すべき自身の能力を見つめ直す良い機会となりました。ローカル企業の一員として実務に携わり、人脈構築、情報収集ができることは、本プログラムの最大の強みであると感じています。

インターンシップ風景



炭鉱での実習の様子



最終論文発表後の記念写真

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

私はメーカーの営業部に所属しておりますが、PT. Adaro Powerの一員として活動したことで、それまでの私は設備を売る側の視点しか持ち合わせていなかったことに改めて気づかされました。例えば、PT. Adaro Powerは石炭会社を母体とする企業ですので、“石炭をどう活かすか”ということが彼らの最優先事項であり、石炭を活かすための幾つかの選択肢のうちの一つが発電事業なのです。そういった考え方を知ることができたのは、自社のビジネスチャンスを検討するうえで大変参考になりました。

現在は、当社に新設された組織にて石炭関連含む当社製品・技術を活かした事業者視点でのBusiness Developmentを担当しておりますが、インターンシップを通して学んだ視点、物事の考え方が大変役に立っています。インターンシップを行ったAdaroグループとも、同じ目標を共有するパートナーとしての関係構築を目指し、継続的にコンタクトを行っています。

また、経済発展著しいインドネシアの現地企業での就業経験は、私自身の仕事に対する考え方にも影響を与えました。例えば、Adaroグループの意思決定や実際に行動するまでの時間はとても短く驚きましたが、これは日々発展する新興国ビジネスにおいては必要不可欠な姿勢であると感じました。私自身も、適切な判断力とフットワークの軽さを心がけて仕事に取り組むようにしています。

さらに、Adaroグループには、自分たちの会社は国を背負っており、この国の経済を発展させていくという高い意識を持つ方々が多く、自分自身の仕事が世の中にどのような影響を与えるかを考えるきっかけになりました。そのような高い意識をもつ上司や同僚と日々意見を交わし、共に仕事をする中で培った貴重な関係は、今でも公私ともに私の支えとなっています。

派遣にあたりお世話になりましたHIDAをはじめとする関係組織の皆様、インターン生の皆様、およびインターンシップ中に出会った皆様との貴重な関係も、大事な財産となっています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

個人としての成長はもちろんのこと、ローカル企業の一員として活動できることは、海外出張や駐在とは違い、このインターンシップ事業で得られる貴重な経験だと思います。企業から派遣される場合には、送り出す企業が今回のインターンシップで目的としていることや期待を明確にインターンに伝えることが成功につながると感じます。またインターン個人としては、インターンシップを自身一人の成長機会だけにとどめず、会社対会社の関係に発展させる意識が必要だと思います。何でも楽しむ姿勢を大切に、積極的に行動して、有意義なインターンシップを自ら作り上げていただければと思います。

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013	インターン番号	KB135	タイプ	提案型
派遣国	インドネシア共和国			派遣都市	ブカシ県
受入機関	PT.MADA WIKRI TUNGGAL(MWT)				
受入機関概要 (事業内容等)	HONDA二輪向け樹脂成型品及び金属スタンピング品の製造販売 ※バンドン・チカラ 計3工場 全従業員620名				
派遣期間	2013年9月25日 ~ 2014年2月28日				
現在の所属先	NITTO SEIKO THAILAND CO.,LTD		当時の所属先	日東精工(株)	
現在の所属部署	MARKETING		所在地	SAMUTPRAKARN	
区分	中堅企業		性別	男	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

インターンシップに参加する前は、中部地区で自動車業界をメインとした営業活動をしており、海外生産に関するご相談を多数受けることがある中、営業マンとして海外での市場、ローカル会社の製品レベルの把握をしたいと思い参加しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

派遣先ではセールスに所属し、日系企業の来客対応、メール対応、サプライヤー訪問といった営業支援しながら、ローカルの仕事レベルの把握に努め、派遣先に対しての改善案をまとめプレゼンを行うといった事をさせて頂きました。その他、サプライヤー訪問や展示会へ参加し、自社工場と派遣国のローカル会社とのコネクション作りや市場調査、現地製品レベルの把握にも努めました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

インターンシップでは、海外で他社の仕事を体験する事ができた事で、海外で仕事することへの順応力が付いたと思い、他社の営業手法を垣間見る事で、自分の仕事効率見直しのきっかけとなったり、新たな気付きを得ることもありました。

また、派遣前、派遣中にJETROやHIDAより勉強会やパーティーを企画して頂ける為、自分が知りたい情報やデータ等を同期の派遣仲間と情報共有したり、JETROやHIDAから手に入れる事も出来たので、目標としていた「派遣国の市場調査」について思っていた以上の成果を達成をする事ができた。

インターンシップ風景



説明 展示会への参加(市場調査)



説明 派遣先へのプレゼン(改善提案)

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

帰国後は以前いた中部地区での営業を引き続き行っていました。1年後の2015年4月より自社タイ現法でマーケティングマネージャーとして仕事をさせて頂く事となりました。

自社のタイ法人は創立から25年経っている事もあり、数多くのお取引先様や市場の把握しなければならず、赴任当初は苦労しましたがインターンシップでの経験があったおかげで、現地スタッフや仕事環境に対する不安は無く仕事に集中できたと思います。

また、派遣先のローカル企業での就労経験から、客観的に自社工場の強みと弱みの把握が出来た点も良かったです。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

インターンシップでは、自分のスキルアップの向上にもなりますし、自社以外の会社の経営方針や運営についての知識を得る事が出来るので、なかなか出来ない経験をさせてもらえます。

海外で一人で生活する事やローカル間での仕事において不安があるかもしれませんが、HIDAやJETROがサポートしてくれるので、積極的に活動される事をお勧めします。

現在の活躍の様子



タイ工場での内勤



客先訪問(工業団地)

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013年	インターン番号	TA001	タイプ	提案型
派遣国	インドネシア共和国		派遣都市	バンドウン	
受入機関	PT.CATURINDO AGUNGJAYA RUBBER (PT.CAR)				
受入機関概要 (事業内容等)	自動車用ゴム製品(ラジエーターホース、ウェザーストリップ、各種プレス製品等)の製造及び販売。従業員は700名程度。				
派遣期間	2013年10月7日 ~ 2014年2月28日				
現在の所属先	広島化成(株)	当時の所属先	同左		
現在の所属部署	海外営業・技術グループ 海外営業・技術課	所在地	広島県		
区分	中小企業	性別	男		

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

自動車業界において、インドネシア進出が活発に行なわれていました。これに追従する形で弊社内においてもインドネシアでの長期的な活動が検討されており、ゆくゆくの目標として合弁会社の設立が掲げられていました。こういった背景があったため、現地でのインターン経験は自身の将来的なキャリアにおいて、非常にプラスになるだろうと考え、参加を決意しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

インドネシアでのゴム製品の生産プロセスについて把握するために、実際の製造現場において見学を行いました。また、自社のインドネシア展開の一助とするため、現地サプライヤーにコンタクトを取り、インドネシアにて調達可能な材料について調査を行いました。さらに、その材料を使用して生産性の良い配合の立案・試作を行いました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

現地の生産工場及び設備の見学、製品の品質に関する考え方について触れる事で、日本との認識の差を学ぶことができ、その中で自社の強みとしてインドネシアでアピールすべきポイントを見つけることができました。また、インドネシアにて調達可能な原材料をコストも含めて確認することができ、種々のコスト検証を行うための資料とすることができました。

良かったこととしては、様々な業種のインターンの方々と交流できたことです。今でも親交があり、色々な形で情報交換をすることができ、業務だけに留まらず多方面においても非常に参考になっております。また、インターンシップを経ることで、行動力、柔軟性、コミュニケーション能力を向上させることができ、対応できる幅が広がったと感じています。

インターンシップ風景



CARスタッフ協力のもと配合試験用の材料の作成を行った。



テスト材料にて製品試作を行った。写真はウェザーストリップを作成しているところ。

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

広島化成(株)はゴム・プラスチック製品の製造販売を行なっている会社で、産業樹脂製品、自動車用工業ゴム製品を扱っています。私はインターンシップ参加前においては、設計・技術グループに所属しており、材料の開発・生産工程の設計を主な業務として活動していました。

インターンシップ後はインターン時の活動が評価され、新設された海外営業・技術グループへ異動となり、今までの業務と併せて、技術営業としてインドネシアでの販路開拓を期待されています。最近では、受入先となって頂いたPT.CARとインドネシアにおいて合弁会社を設立することとなり、インターン時に築いた関係性を基にして両社の橋渡しとしての役割を担っています。このまま順調に進捗すれば、2016年の中旬頃には現地駐在員としてインドネシアに赴任することになると思います。

インターンシップ中においては、PT.CARに仲介して頂き、様々な企業の方とコンタクトを取り、各業界の実情を直に伺うことができたため、インドネシアにおける営業計画作成のための一助となりました。現在では、その内の数社と受注に向けた前向きな話をさせて頂いております。これからもこの人脈を活かした形での販路拡大が望めると見込んでいます。

また、従業員の雇用について、宗教や習慣からくる日本とのギャップを身をもって体感できたことも収穫だったと思っています。この経験は将来的に合弁会社で従業員を雇用する際の管理体制の構築に必ず役に立つと感じています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

このインターンシップは現地企業を内部から、実務を体験しながら長期間観察できるため、外国企業での就労に興味のある学生の方や海外進出を目指している企業の方にとって非常に良いプログラムだと思います。

また、インターン前、インターン中、インターン後においてもHIDAの方々から万全のフォローを受けることができ、現地の事情に精通していなくても問題なく活動できるので非常にお勧めです。

現在の活躍の様子



合弁会社の工場候補地を視察。



合弁会社の事務所候補地を視察。

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013	インターン番号	KB013	タイプ	公募型
派遣国	インドネシア共和国			派遣都市	ジャカルタ、ブカシ、カラワン、スラバヤ
受入機関	PT. JAC Indonesia				
受入機関概要 (事業内容等)	2002年設立 社員数175名 国内4拠点 インドネシア最大手の人材紹介・人事コンサルティング会社				
派遣期間	2013年9月18日～2014年2月28日				
現在の所属先	大阪大学		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	外国語学部		所在地	大阪府	
区分	学生		性別	男性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

私は、元々海外志向が強く大学では外国語学部に所属しインドネシア語を専攻していました。大学に入学してからも漠然とでしたが、将来は国際的に活躍したいと思っていました。そのような時に国際即戦力インターンシップ事業を知りました。自身の思いが本気なのか、そして海外で日本人マイノリティの中で働くとは一体どういうことなのか、ということを知りたくインターンシップに参加しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

私はインドネシア国内にある4拠点(ジャカルタ、ブカシ、カラワン、スラバヤ)を移動しながらインターンシップを行っていました。そのいずれも期間も主に人材紹介事業の業務に携わっていました。採用候補者と企業の間で面接機会のセッティングや面接中での通訳を行っていました。またスラバヤに新オフィスが開設されてからは唯一の日本人としてオフィスに常駐し、日系企業を中心に新規市場開拓の営業を行っていました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

私はインターンシップへの参加に際して、インドネシアに進出している日系企業が現地で抱える問題・課題等の理解を深めることを目標としていました。インターンシップ派遣先機関は人材紹介・人事コンサルティングを行っている企業で、幅広い業界との繋がりがあり、私の目標達成のためには非常に良い環境でした。実際に受入機関のサポートを受けながら様々な機会をいただきました。業務を通じてでは日本人、インドネシア人問わず多くの方の声をヒアリングすることができ、インターンシップに際しての目標は概ね達成できたと考えています。

このプロセスの中では大勢のインドネシア人スタッフの方に助けていただき、日本人マイノリティの環境下での行動力や、バックグラウンドの異なる人々を巻き込む主体性を向上させることができました。

またインターンシップ期間中の約3ヶ月間、受入機関のインドネシア人の方の自宅にホームステイをする機会もいただきました。インドネシア現地の生活にどっぷりと浸かることができ、文化への理解、語学力の向上につながり大変良かったです。

インターンシップ風景



ジャカルタオフィスの社員の方々と



会社の年末パーティにて

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

私は大学3年次にインターンシップに参加しました。インターンシップ終了後には将来的にインドネシアに携わることのできる企業を中心に就職活動を行いました。そして最終的にはエネルギー開発企業より内定を得ました。この進路選択はインドネシアでのインターンシップ経験の影響が大きかったです。

インターンシップ参加前に抱いていた海外志向や日本人マイノリティの環境下での挑戦欲はインターンシップ参加後にはますます強いものになりました。なかなか思い通りにならないこともありましたが、それをバックグラウンドの異なる人々と協力して乗り越えていく、海外で働くことは日本以上に刺激的で喜怒哀楽に満ち溢れていることだと実感しました。こういった経験が私を海外・インドネシアでの活躍舞台を求めよう突き動かしたのです。

またインターンシップ中にはホームステイ経験をしたり、インドネシア人の方と多く接点を持つ等、現地への理解を深めようとしていました。その際に、当地における停電事情や低所得者層向けの燃料補助金削減といった問題を知り、関心を持つようになりました。インフラのインフラである石油・天然ガスを開発するエネルギー開発企業であればそういった問題にアプローチすることができると思ったのです。同時にインドネシアでのエネルギー開発に携わり、それが資源小国である日本へのエネルギー供給にも繋がれば、日本・インドネシア双方に資することができると思い現在の進路を決定しました。

就職活動ではインターンシップ経験のことを関心を持って聞いていただきました。スラバヤでの新規市場開拓のための取り組みは積極性や自主性を評価していただきましたが、特にインドネシア人スタッフ方に協力を得ながらやり遂げたこと、そのことを最も評価していただきました。

内定先であるエネルギー開発企業での仕事は日本だけが勤務地という訳でもありませんし、私1人、日本人スタッフだけで行うことができません。時には異国の地で、外国人スタッフの方を巻き込み、協力し合いながら行うものです。インドネシアでのインターンシップで培ったことにさらに磨きをかけて社会に出ていきたいと思っています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

機会、経験、人脈、国際即戦力インターンシップ事業では本当に多くのものを得ることができます。経済産業省、JETRO、HIDAといった機関が間に入らなければ新興国でのインターンシップの機会等なかなか得ることができないと思いますし、インターンシップの経験自体は自身の大きな成長に繋がると思います。またインターンシップを通じて得た日本人・外国人の方との接点は今後も自身を刺激して良いモチベーションになると考えます。私にとって非常に大きな転換点となったインターンシップ事業です。

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013年度	インターン番号	KB223	タイプ	公募型
派遣国	マレーシア			派遣都市	クアラルンプール
受入機関	Open University Malaysia				
受入機関概要 (事業内容等)	Open University Malaysia は、マレーシアの私立大学で主に働く社会人に向けたオンラインによる高等教育の配信を行っている。マレーシアのOpen Educationのパイオニア的存在である。11の公立大学の出資のもと作られたMETEOR(MULTIMEDIA TECHNOLOGY ENHANCEMENT OPERATIONS SDN BHD)の一部でグループ全体従業員646名のうち542名がOpen University Malaysiaに所属する。				
派遣期間	2013年12月18日-2014年2月28日				
現在の所属先	Institute of Education-UCL(所属先を休職して留学中)		当時の所属先	東京音楽大学	
現在の所属部署	MA Higher and Professional Education		所在地	東京	
区分	その他		性別	男性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

マレーシア及びOUMは、高等教育の国際化、民営化、デジタル化、質保障問題等、今後の私学高等教育の方向性を考えるにあたり、非常に参考になる事例だと考え、応募しました。所属機関もアジアの大学とのネットワーク作りという点を好意的に受け止めてくれましたので、参加させていただくことができました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

インターンシップ前半は、OUMのE-learningのシステム運用、教育コンテンツ作成、Onlineシステム上での教授法のワークショップなどに参加させていただきました。新学期の開始時期と重なっていたため、新入生の受け入れ手続等で、実際にOnlineで授業を受けている学生、入学を検討している学生とその保護者と触れる機会もありました。インターンシップ後半では、日本人学生向けプログラム及び海外他機関の研修プログラムの補助及びアセスメント、新プログラムの提案などに参加しました。

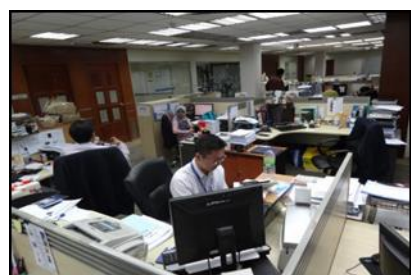
3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

具体的な成果としては、マレーシアの高等教育関係者、舞台芸術関係者とネットワークを作れたことが挙げられると思います。私の場合は、企業派遣ではなかったため、比較的自由に自分が必要だと感じたことに参加できたように思います。インターンという肩書で、色々な人に会う機会がありました。自分の立場や目的を説明し、交渉する機会も多かったため、コミュニケーション能力が向上したと感じます。ネットワーク作りの過程とインターンシップ中の業務への参加を通じて、多様な高等教育の展開を実際に目にすることが出来たことと、高等教育関係者と高等教育に関する問題意識を共有できたことは、現在の大学院での勉強でも役に立っています。マレーシアのワークカルチャーやムスリムの生活習慣に関する理解が深まったと感じています。派遣前・派遣後の研修での他業種の方との交流は、大変勉強になりました。他のインターンの方々の活躍は、現在も、とても良い刺激になっています。

インターンシップ風景



OUMのProf.RamliとASWARA Malaysia(芸術大学)、音楽部学長Ramlan氏のを訪問



International Operation Unit にて、執務中

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

一番大きな影響は、イギリスの大学院で高等教育を学ぶという決断をしたことだと思います。OUMでの業務や他の高等教育関係者との交流を通じて、今まで自分が考えていた「大学」(高等教育)のイメージが大きく変わりました。高等教育をより学術的に大きなフレームで捉え直す必要性を感じ、大学院で学ぶことを決めました。

OUMのVice-President(当時)のRepin Ibrahim氏とは、インターン修了後も日本で数回お会いし、高等教育マネジメントに関する助言や意見交換をさせて頂いています。

私が学んでいるプログラムでは、国際的なレベル、国家的なレベル、組織的なレベルを行き来しながら高等教育について考えさせられることが多いのですが、OUMという非常にユニークな組織、マレーシアというアクティブな高等教育市場を体験していることは、理解の助けになっていると実感しています。

マレーシアは、多様なエスニック・グループが共存している不思議な国でした。こうした環境で過ごしたことから、様々な文化に対する気遣いや気付き＝文化リテラシーのようなものを自然に意識するようになったと感じます。こうした意識は、海外で勉強したり、仕事をしたりする際に、その経験をより豊かにするうえで、役立つのではないかと考えています。実際、イギリスでの生活・勉強の際に、こうした文化間の差異を意識することで、以前より多くのことを吸収できるようになったと感じています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

様々な目的・目標を持って参加される方がいらっしやると思いますが、インターンシップは、実際に組織の内部に入って、就業体験ができるという貴重な機会ですので、積極的にスタッフや現地の方と交流すると得るもの多いのではないかと思います。また、HIDAのスタッフの方は、本当に親身になってサポートして下さいます。迷っている方がいましたら、応募することをお勧めします。

現在の活躍の様子



研究方法の授業でディスカッションをしている様子



Institute of Education -UCLのメインビルディング

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013年	インターン番号	KB019	タイプ	公募型
派遣国	インドネシア共和国			派遣都市	ジャカルタ
受入機関	Indonesian Chamber of Commerce and Industry (KADIN)				
受入機関概要 (事業内容等)	インドネシア商工会議所 インドネシア最大の経済団体 インドネシアの産業界を牽引し、政府への意見機関				
派遣期間	2013年9月18日～2014年2月28日				
現在の所属先	大森電機工業株式会社		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	営業部		所在地	神奈川県	
区分	中小企業		性別	男	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

中小企業の後継者という立場から、今後経営者として海外展開及び海外企業との提携を視野に、現地で体験から今後の事業展開を円滑にしたいと考えたからです。日本とは異なる、多宗教、多民族の文化に触れ、ビジネスや生活における違いを肌で感じる必要性を強く意識し、インドネシアへのインターンシップを希望しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

商工会議所という立場の為、APECをはじめとした国際・国内の経済会議、イベントを多く主催しており、会議・イベントの補助、及びKADIN所属企業との意見交換、政府関係者との意見交換が主な業務でした。また、インドネシアは多くの島々から形成されている為、各島々の支社へ行き、各々が実施している政策などについても意見交換を行いました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

インターン期間中は、仕事の面だけでなく、日々の生活からも自分自身で考え行動することが必要とされ、普段の意識の持ち方次第で成果が大きく変わっていくことを実感しました。また、言葉の壁は、英語が出来ればということだけでなく、現地言葉でコミュニケーションをとる必要性を強く感じ、結果として生活面での会話には苦慮することが無くなったことも新しい発見でした。

日本国内では、一企業の人間として見られるが、海外では日本企業からの人間として見られる為、日本の強さ、弱さを再認識することができ、帰国後の活動においても良いきっかけとなりました。

インターンシップ風景



KADIN主催イベントの業務にて



工業地域見学

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

帰国後は、JETROの「専門家による新興国進出個別支援サービス」を活用し、さらに1年間、ジャカルタを中心に市場調査、現地日系企業とのコネクション形成を行いました。その結果、日系の大手企業様3社と新たにお取引(製品の設計・開発・製造)を開始し、国内向け、海外向けの製品を共同で開発しております。

また、1年半(インターン+支援サービス)の活動を通じて出会った多くの企業様(国内、海外問わず)と交流を続けており、インドネシア以外での新たな取り組みとして、ベトナムでの人材教育、及びインバウンドビジネスに向けた事業展開を図っております。

今後は、現在の活動に加え、インドネシアとベトナムの大学とのコネクションを生かし、少子化に対応すべく人材の受入れ、活用を行っていきたいと思っています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

日本の企業に所属しながらのインターンシップ参加という機会は非常に貴重です。さらにこのインターンシップでは現地の日系企業でなく、現地企業で働くことが出来る為、心身共に鍛えられます。

日本で働くだけでは経験が出来ない事が多々あり、経験談やこのような文面では中々伝えきれないほど充実した経験が出来ます。社会人としてだけでなく、一個人として成長できる機会ですので、是非活用してみてください。

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013年度	インターン番号	KB220	タイプ	公募型
派遣国	バングラデシュ		派遣都市	チッタゴン	
受入機関	The Chittagong Chamber of Commerce and Industry (CCCI)				
受入機関概要 (事業内容等)	チッタゴン管区内における経済について広報活動、政策提言、セミナーの開催を行う。				
派遣期間	2013年12月3日～2013年2月28日				
現在の所属先	デロイトトーマツコンサルティング合同会社		当時の所属先	法政大学	
現在の所属部署			所在地	東京	
区分	大企業		性別	女性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

バングラデシュ政府は、貿易、産業、投資などを通じた経済開発のために、外資企業とどういったwin-win関係の構築を求めているのか、どのビジネス分野を更に開発していきたいのか、相手国における市場ニーズを調査する。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

- ・チッタゴンにおける投資環境の現状と課題を調査するために、公的機関・民間企業へのインタビュー、案件視察
- ・セミナー、会議の運営

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

(1) 市場・業界情報等の調査

公的機関だけでなく、民間企業へもインタビューへ行くことで、包括的に情報収集が出来、現状・課題ともに理解することができた。また、日常のインターンシップを通じて、両者のビジネスに関する情報交換が出来た点が有意義であった。今後のビジネスにおける日バの架け橋だけではなく、個人的にもバ国の開発問題を解決できるような人材になりたい。

(2) グローバルビジネスリーダーとしての資質の向上

新興国・途上国におけるビジネスチャンス把握したことで、それに合わせて将来のキャリアプランを具体的に描くことが出来た。

インターンシップ風景



チッタゴン港視察



縫製工場視察

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

(1) キャリアアップ

インターンシップ時は学生であり、終了直後は、外資系金融機関に勤めておりました。転職を経て、現在は経営コンサルティング会社で対企業向け事業戦略、事業改革に携わっています。

経済産業省主催のインターンシップ制度を通じて、新興国に滞在したことは、国の代表として非常に価値あることです。個人で応募するインターンシップとは異なり、相手国政府機関で業務が出来、多くの要人に接することが多く、自分の工夫次第で様々な付加価値を生み出すことが出来ます。

そういったことが評価され、私も経営コンサルティング会社へ転職することができ、夢である「国際機関で途上国の産業基盤整備、投資促進事業に携わる」という夢へ、少しずつ近づくことが出来ています。

(2) 当時の研究

当時、日本の援助政策(主に円借款)について研究をしていました。日常の研究では、日本国内の状況は調査することが出来ても、被援助国の政府がどのような体制で援助を活用しているのか、といった相手国側の現状を中々調べることが出来ず、研究に息詰まる日々が続いていました。

インターンシップを通じて、バングラデシュの様々な公的機関を訪れることが出来、インターンシップ業務だけでなく、自身の研究にも大いに役に立ちました。政府の要人や重要案件を訪問することが出来る機会を与えてくださったことに感謝しております。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

途上国向けのビジネスに関心がある方は、是非応募を強くお勧めします。HIDAの方々の心強いサポートもあり、何よりもこのインターンシップ事業は経済産業省の公式制度です。多くの情報、人脈など、皆さんの今後を左右するリソースが待っています。滅多にないこのチャンスを、是非活かしていただければ幸いです。

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013年度	インターン番号	KB239	タイプ	公募型
派遣国	ミャンマー連邦共和国			派遣都市	ヤンゴン
受入機関	Royal Ruby Co., Ltd.				
受入機関概要 (事業内容等)	・医薬品及び健康食品の輸入・販売、伝統薬の製造・販売 ・従業員：約150名、ミャンマー国内に主要拠点4カ所				
派遣期間	2013年12月9日 ～ 2014年2月28日				
現在の所属先	Grant Thornton Indonesia	当時の所属先	太陽有限責任監査法人		
現在の所属部署	Japan Desk	所在地	ジャカルタ		
区分	その他	性別	男		

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

自身の活動のフィールドの幅を広げたい、自分がまだ知らない新しいこと、多様なことに触れたいと以前から感じており、海外に長期間滞在したいという思いを持っていたため応募しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

受入機関では、会計関連の業務改善提案を行ないました。また、ビジネス環境を理解するため、工場や地方支店への訪問も行ないました。受入機関外では、ミャンマーの会計事情及び商慣行を理解するため、受入機関外部の人へインタビューをして回りました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

派遣国の文化・社会・商習慣の理解は、当初の目標どおりに達成できました。実際に自分で体験し、現地で働く人から直接話を聞くことで日本からは見えにくい実態を理解することができました。また、派遣国特有のことも多く学びましたが、他の東南アジア諸国でも共通するようなことに気づくこともできました。例えば、日本にいる時には、多くの”前提”の上で仕事をしていたことに気づくことができました。日本では、インターネットはスムーズに接続でき、調べたい情報がすぐに検索できますし、法律やルールも比較的明確なものが多いです。しかし、この”前提”は他の東南アジア諸国とは状況が異なることが多いと感じました。そして、このような状況下でビジネスすることの難しさを体験できたことは貴重な経験となりました。また、インターンシップ期間中に今まで出会ったことのないタイプの人と出会うことができ、そこで出会った人達から、新しいこと、多様なことを学ばせてもらったことも非常に良かったです。

インターンシップ風景



工場では伝統的の製造工程を体験



会社内で業務改善提案の説明中

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

インターンシップ派遣国とは異なりますが、現在、海外駐在員としてインドネシアに勤務しています。帰国後は、日本で元の所属先である監査法人で仕事を再開しましたが、派遣前に比べていくつか変化がありました。

例えば、派遣前は国内企業の監査をする機会が多かったのですが、国際関係の業務や監査以外の業務に携わる機会が増えました。派遣国に直結する仕事は少なかったものの、外資企業の監査や、海外進出支援、財務デューデリジェンス等を行い、日本の外に意識を向ける機会や、視点を変えて業務を行なう機会が増えました。

また、物事の捉え方、考え方にも変化があったと感じています。今まで気づくことの無かった”前提”の上に乗っていることを意識するようになり、より本質的に物事と向き合うようになりました。

このような変化が嬉しかったこともあり、海外で勤務し、もっと視野を広げていきたいということや抱くようになり、インターンシップの帰国から約1年半後にインドネシアに駐在することになりました。

派遣国とは別の国への駐在ではありますが、インターンシップ中に、多くの人にインタビューをさせてもらい、日本と東南アジアの国の違いという部分の理解があったため、駐在開始時の戸惑いが少なかったと感じています。もちろん、全く同じというわけではないですが、同じ東南アジアということもあり、インターンシップ中に派遣国で感じたことは、インドネシアでも活かすことができます。

また、インターンシップ中に出会った人達に、派遣前には知らなかったこと、人をたくさん紹介してもらったことで、自分の知らない世界を知り、応援したいと思える人達にも出会うことができました。例えば、海外で活動するNPO法人や一般社団法人の人に出会えました。この人達の活動を身近で感じられたことも、自分自身が今後日本だけでなく、海外もフィールドとして仕事をしたいと、継続的に思わせられるきっかけとなったため、インターンシップに参加したことが、海外に目を向け続ける動機付けとしても活きています。

インターンシップでの経験が、今の自分の環境にどれだけ作用しているか測ることは難しく、間接的で複合的な要素も多いですが、大きく作用していることは間違いないと感じています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

私自身は、派遣前、インターンシップ中にどんなことが得られるかということがすごく大切で、ここを重視しなければいけないと感じていましたが、実際には、派遣中よりも帰国後に、インターンシップに行ったことをきっかけで色々な変化が現れてきました。インターンシップ中に明確な成果を挙げることも大切だと思いますが、振り返ってみると、私にとってこのインターンシップは、インターンシップ後の活動のためのきっかけを多く得た期間であったと感じています。アンテナさえ張っておけば、自分でも思いがけないきっかけにたくさん出会えるので、参加したい気持ちとその環境が整っているのであれば、是非参加されることをお勧めします。

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013	インターン番号	KB074	タイプ	公募型
派遣国	バングラデシュ人民共和国			派遣都市	チッタゴン
受入機関	Chittagong Water Supply & Sewerage Authority (CWASA)				
受入機関概要 (事業内容等)	バングラデシュ第2の都市チッタゴンの主に都市部において 上水道の整備・水供給を担当				
派遣期間	2013年9月24日 ~ 2013年12月20日				
現在の所属先	東京工業大学大学院		当時の所属先	東京工業大学	
現在の所属部署	総合理工学研究科 博士課程		所在地	神奈川県	
区分	学生		性別	男	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

インターン以前からは新興国に興味がありましたが、これまで蓄えてきた経験や知識がどのように活かせば良いのかイメージが持てていませんでした。本インターンシップでは、それらを国際社会という場でどう発揮するのか体験する良い機会だと考え参加を決意しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

- ・CWASAの各部門を訪問、上水道関連施設および工事現場の視察
- ・Khulna WASA訪問
- ・レポート作成・プレゼンテーション
- ・村落部におけるホームステイ、孤児院訪問

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

- ・語学力: 英語のSpeaking力がある程度向上しました。
- ・コネクション: 3ヶ月間の滞在中、多くの人と交流し今後にも繋がるコネクションを築くことができました。
- ・視野: 自らの視野の広がりを感じ、海外、特に新興国で働くことを強く意識し始めました。
- ・弱点: 新たな取り組みを多く取り入れた結果、自らの不得意な分野を多く把握することができ、その後の改善に繋がりました。

インターンシップ風景



水道管敷設工事現場



最終プレゼン終了後、修了式の様子

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

【コネクションを活かし、教育分野の活動に繋がる】

「日本×バングラデシュ姉妹学級プロジェクト」と題して、2014年12月から3月までの4ヶ月間で、日本およびバングラデシュの子供たち約750名に国際交流と科学の楽しさに触れてもらう機会を提供しました。本プロジェクトは、計4回のワークショップ（長野県中学校にて3回、バングラデシュ・チッタゴンの孤児院にて1回）を通して、日本とバングラデシュの中学生の交流を促進し、国際理解や理系志向の向上を狙うものでした。実施にあたり、JETRO・HIDAの皆様には安全情報などを頂き、また、バングラデシュ現地の方々や、当時滞在中のインターン生には滞在環境や交通手段など全面的な支援を頂き、その他にも多くのご支援を頂き、無事にプロジェクトを遂行することができました。

本プロジェクトを企画しようと考えたのは、私が「教育」と「新興国」に興味があり、どのような分野を将来の職としていくか悩んでいたことが1つのきっかけです。約8年間電気系を学んできた私にとって、教育と新興国を軸に仕事をするためには、何か1つ強みが必要であることをインターンシップを通じて学びました。自らの強みは何なのか、教育と新興国を軸にするにはどのような活動をすれば良いのか、実際に体験し肌で感じる機会を実現することができ、非常に多くの気付きを得ることができました。

素晴らしい機会を実現してくれた、このコネクションこそがインターンシップで得た最も大きな財産の1つと言えます。

【将来の進路設計に繋がる】

上記のような貴重な経験から、草の根レベルではなく、より全体を俯瞰したポジションで教育に携わりたいことを悟りました。そのポジションは具体的にどのようなものなのか熟考するためにも、またそのポジションにいち早く辿りつくためにも、博士号取得を目指して進学したことはとても有意義だと考えています。

このように、インターンシップから派生して得ることのできた新たな価値観が、私の現在の活動に大きな影響を与えています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

異国の地で自らが思い描いていることをトライしてみる場として、ここまで様々な支援を頂けて、環境も整っているプログラムは数少ないと思います。学生向けにはなりますが、特に新興国と関わる仕事をしてみたいと思う方はぜひ参加してみてくださいはどうか。多くの人との関わりが貴重な気付きを生んでくれると思います。

現在の活躍の様子



バングラデシュ再訪時
ロボットワークショップの様子



東京工業大学大学院学位授与式

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013年度	インターン番号	KB063	タイプ	公募
派遣国	ベトナム社会主義共和国		派遣都市	ホーチミン市	
受入機関	Saigon Water Corporation (SAWACO)				
受入機関概要 (事業内容等)	<ul style="list-style-type: none"> ・水道水の生産、供給および料金徴収 ・浄水設備、配水管路の設計、建設、維持管理 				
派遣期間	2013年9月18日～2013年12月14日				
現在の所属先	積水化学工業株式会社 環境・ライフラインカンパニー		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	水インフラ海外事業部		所在地	東京都	
区分	大企業		性別	男	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

1. 現地水インフラの現状把握と自社製品および技術へのニーズ調査
2. 現地ビジネス推進のための人脈づくり
3. 自分自身の海外勤務適正の見定め

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

様々な部署、施設を訪問し、業務、施設、今後の方針などについての説明を受け、質疑応答や、意見交換を実施をしました。また、現地のニーズに仮説が立ったところで、日本の水インフラの状況の紹介や技術の紹介を行い、今後の方針についても意見交換を行いました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

(達成できたこと)

1. ホーチミン市の水インフラが抱える問題および今後の方針を知り、ニーズの高いと想定される自社および日本国内の製品・技術についての勉強会、意見交換会を実施した。
2. ベトナムの水インフラに関わるプレーヤーの整理と意思決定プロセスを学べた。また、キーマン、パートナーの明確化と人脈形成ができた。

(良かったこと)

海外でのビジネスの面白さややりがいを発見し、また、自身の海外勤務への適正についても確認をすることができた。

インターンシップ風景



(視察) 浄水場にて水質管理の現状を学ぶ



(視察) 漏水現場にて検知や補修の現状を学ぶ

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

このインターンシップを知った頃、積水化学工業株式会社の私の所属する環境・ライフラインカンパニーでは当時ベトナムのTien Phong Plastic社と提携を始めたタイミングでした。ですので、私がインターンシップで得た情報や構築した人脈は社内で即活用可能な資産となりました。そして、私もこれを活用してもっと深く携わりたいと思いました。

しかし、帰国後しばらくは元々の予定どおり所属していた部署に戻り、新製品の開発や営業をおこなうことになりました。この間インターンシップを通じて成長したと感ずることができたのは、コミュニケーションスキルでした。ベトナムでは相手の知識や考え方が大きく異なることで会話が成り立たないこともしばしばありました。日本でも同じことは言えますが、ベトナムでそのギャップを探り、埋めていくプロセスは日本で経験するそれ以上の難しさと楽しさがあり、その感度を鍛えられたと思っています。

一方、インターンシップとは関連の薄い仕事を行う傍らで、今後のキャリアについて考えるようになり、自分自身のスキルやこれまで関係の薄かった社内の基盤事業にも目をむけるようになり、語学の勉強や自分以外の仕事を学ぶ機会をつくるようになりました。インターンシップの期間中で自分の能力や知識が足りずに実現できなかったことが数多くあったからです。

そうして、帰国から2年経ち私は今、主にアジアの水インフラに関わる事業に携わっています。現在はこの間にできたベトナムの子会社の経営管理・事業企画を主におこなっています。といっても実際には、インターンシップでお世話になったSAWACOを訪問して当社の上水道技術で貢献できることがないかヒアリングや提案をしたり、他にも下水道公社と連携してベトナムに新技術導入のための試験施工を実施したりと手足を動かす仕事も少なくないです。

インターンシップで得たベトナムのインフラに関する知見や人脈はそのまま活かされ、情報の収集やキーマンへのアプローチで間違いなく大きな武器になっています。また、その武器を獲得したノウハウを拡大展開しながら、私はいま自分のやりたいことをやらせてもらっています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

このインターンシップは自分を試してみる絶好のチャンスだと思います。

自分の視野を広げたり適正を確認するために、「期限つき、サポートあり」で安心して自分に向き合える機会はそう多くないと思います。

本業を離れて参加する際には、その前後で大変な苦勞もあるでしょうが、目標さえ高く具体的にもっていれば、有意義な経験ができると思います。

現在の活躍の様子



(現場)ベトナム初となる老朽埋設管の非開削での更生



(ミーティング)試験施工の結果の報告と今後のプロジェクト推進について

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013	インターン番号	KB108	タイプ	公募型
派遣国	インドネシア共和国			派遣都市	ジャカルタ
受入機関	Directorate General of Electricity, Ministry of Energy and Mineral Resources (以下、「エネルギー鉱物資源省、電力総局」)				
受入機関概要 (事業内容等)	エネルギー鉱物資源省はインドネシアのエネルギー分野全般を所掌する主要機関であり、その中の電力総局がインドネシアの電力部門の規制・監督、政策策定等を担っています。				
派遣期間	2013年9月18日 ~ 2014年2月28日				
現在の所属先	中国電力株式会社		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	国際事業部門		所在地	広島	
区分	大企業		性別	男性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

私が働いている中国電力株式会社は、海外において発電事業(IPP事業)を展開することを目指しており、インドネシアもその候補国の一つです。IPP事業ではその国の政府機関が重要な役割を果たすことになることから、本インターンシップに参加することで人脈を作り電力総局との関係を構築すること、制度や政策に関する現地の生の情報を収集することが大きな目標でした。また、当時英語もほとんど話せなかった私自身の能力向上というのも参加理由の一つです。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

電力総局に勤務されていたJICA専門家の事務所に受け入れていただきました。日常業務としては、そこで準備を進めていたエネルギー政策関連のワークショップやイベント開催のサポートをさせていただきました。また、現地の職員の方々の協力をいただき、職員の方々による電力政策のレクチャーを受講したり、インドネシアの発電所や研究所を見学させていただいたり、様々な経験をさせていただきました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

インターンシップを通じ、電力総局の数多くの職員の方々とは知り合うことができ、今でも気軽に情報交換をできる関係を築くことができました。また、インドネシアの電力開発計画について、進捗状況や課題といった具体的な情報を数多くお聞きすることができたほか、コミュニケーションを通じてインドネシア独特の時間間隔、厳しい上下関係といった異文化の理解も深まりました。

その他、個人的なことではありますが、これまで海外経験がゼロだった私にとって、海外と関わることはこんなに面白いのかと、自身の価値観が変わったきっかけになったのは大変大きな収穫でした。

インターンシップ風景



職場における普通の会議の様子



エネルギー鉱物資源省の職員による再生可能エネルギーについてのレクチャーの様子

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

中国電力では海外事業を新たな収益源とするべく、数年前からIPP事業への参画へ向けた取り組みを本格化しています。そのような状況下、私はインターンシップに参加するまでは海外案件を総括・管理する部署で、主に総務的な業務を担当していました。

インターンシップ参加後は、社内でレポートを提出し、何度かインドネシアに関する発表も行ったことから、インドネシアに関して 多少は見識がある担当者 として社内で見てもらえるようになり、IPP事業について実際にプロジェクトを担当する部署に異動となりました。仕事では、インターンシップ中のインドネシアでの経験が買われ、インドネシアにおけるプロジェクトの取りまとめ役として現地に出張することもあります。例えば昨年、インドネシアのある島で水力発電所候補地の調査を実施しました。建設候補地を確認し、水力発電所の建設可否を技術的な側面から確かめることが目的でしたが、首都であるジャカルタから現場までの移動時間は10時間以上。事務系の社員がそのような現場を訪問することはなかなかできません。インドネシアの自然の中で、「ここに水力発電所を自分たちで造れるかもしれない」と自分の肌で感じる事ができたのは、インターンシップがあったからこそできた経験だと思っています。

また、インドネシアに関する報道で不明な点があった場合には、電力総局の知り合いに質問をすることができ、情報のアップデートが可能と判断された私に、帰国後ずっとインドネシアの情報収集の業務も任されています。今ではインドネシアに関係する話があった際には、他の部署からもその情報を提供してもらえるようになりました。先日は情報収集のため、電力総局や関係先に出張し、インドネシアにおける事業可能性について聞き取り調査を実施してきました。残念ながらまだ具体的な投資案件にはつながってはいませんが、インターンシップ中に得た知識により、どのような機関にアプローチする必要があるかが徐々に分かるようになってきたと感じています。訪問時のアポイントメントの取り付け等においても、インターンシップで得たコネクションに助けられています。

他にも、インターンシップ中は電力総局以外でも、インターンの同期生、現地の駐在者等、日本には出会えなかったであろう多くの方々と知り合うことができました。こうした方々とは今でも日本やインドネシアでお会いし、インドネシアに進出している日系企業の状況や、海外事業をする上での課題など、業種にとらわれない様々なお話をお聞かせいただいております。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

派遣されてよく分かりましたが、母国語として英語を使っていないインドネシアでは、日本には入手できない情報が数多くあります。また、派遣先により活動内容は様々かとは思いますが、日本には出会えない大勢の方に出会えると思います。インターンシップ中にお会いできた方々から学んだことは、これまでの考え方が変わるほど私には大きなものでした。迷われているようでしたら是非参加されてみてはいかがでしょうか。

現在の活躍の様子



インドネシアにおける水力発電所候補地調査の様子

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013年度	インターン番号	TA205	タイプ	提案型
派遣国	モザンビーク共和国			派遣都市	マプト市
受入機関	Petroleos de Mocambique S.A. (PETROMOC)				
受入機関概要 (事業内容等)	モザンビーク国内において、ガソリン等の石油製品の輸出入・国内販売を行う国営会社。 同国エネルギー省傘下(当時)				
派遣期間	2013年12月2日～2014年2月28日				
現在の所属先	Marubeni India Private Ltd.		当時の所属先	丸紅株式会社	
現在の所属部署	化学品部		所在地	インド/デリー	
区分	大企業		性別	男	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

元々、所属機関で海外の天然資源に本邦の技術を応用して付加価値をつける案件を担当していました。その中で、本インターンシップ事業を知り、資源国としての将来性豊かと思われるモザンビークの文化や慣習、天然資源に関わる諸状況について理解を深めたく、PETROMOCへインターンの受入れを申し入れ提案型事業への応募に至りました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

主に天然資源開発状況の調査・関連法規等の調査等を行っていました。同国は近年発見されつつある鉱物資源等の開発・利用に関してのルール作り等が進められており、国外からも多くの注目を集めています。その最前線の現場で各省庁・政府機関等を訪問して最新の状況を調べ、それらの枠組みの中で本邦とモザンビークがどのような協力を行えるのか、受入機関の担当者と検討しました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

受入機関の担当者との日夜熱い議論を交わした中から出てきたのが、同国で産出が期待される天然ガスを原料に、モザンビークが現在100%輸入に依存しているガソリンを本邦の技術を応用して生産する事業案でした。それにより、同国の天然資源を単に輸出して換金するのではなく、同国の国民の日常生活へ裨益させること、そして本邦の技術を移転し知的雇用の促進も図ることができます。我々のこのアイデアは同国政府の着目するところとなり、たまたまインターン期間中にモザンビークを公式訪問された安倍総理大臣とゲブーザ大統領(当時)の立会いの元、「日本・モザンビーク投資フォーラム」の席上に披露され関連の覚書が調印されました。国家首脳が見守る中で自分たちが考えたアイデアが取上げられたことはインターンシップ中の大きな思い出となり、受入れ機関の担当者と、言葉にできない達成感を共有したことを覚えています。

インターンシップ風景



2014年1月の日本・モザンビーク投資フォーラム調印式の様子。



インターンシップ終了時に受入機関の同僚が開いてくれた送別会。

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

私はこのインターンシップで得られる経験は大きく2つの種類に分かれています。1つは派遣国でビジネスを行う際に直接的に役立つ経験、もう1つは広く海外ビジネスで役立つ経験です。

私の場合、前者は、現地でたくさんの友人・縁に恵まれたことでした。モザンビークは近年こそ諸資源の開発や安定した政治により、海外にも比較的OPENですが、1990年代まで内戦を行っていたため政府機関や経済、国内の有力企業や商習慣などの一般情報が得づらい国となっていました。

私は、インターンシップの同僚に恵まれたことで人脈を広げることができ、結果、例えば、資源の利用方針の議論は某省庁の担当者に、法規制の運用はその下位組織のマネージャーに、といった様にある特定のTOPICSを適切な人物と議論できるようになりました。とても基本的なことですが、それはインターンシップ中に得られた人脈のおかげです。いまも受入機関の同僚たちとは公私含め連絡を取り合っており、それは一緒に机を並べて共通の目標に向けてインターンシップを行えたからこそと思います。

また、私はいま、所属機関の駐在員としてインドの企業に派遣されています。モザンビークでのインターンシップと同様に日本人が職場に一人の環境で現地の人たちと業務にあたっており、そこでもやはり、日本では「当然」と思われている常識を捨てる柔軟さが求められます。例えば財務関連の書類一つをとっても、日本では「会社の財務状況が健全であるか」を示すことが基本コンセプトであるのに対しインドでは「株主が投じた資金がきちんと維持・運用されているか」という考え方でフォーマットが作られています。それらは同じ情報を提供していますが、コンセプトが異なるため、実際に書類を作成する作業上では集める情報や、社内外関係者との調整が若干異なってきます。このような、現地ルールを噛み砕いて理解し自分の作業に落とし込む動作は、インターンシップ期間中に学んだものに通じています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

このインターンシップの大きな特徴は、志を同じくする仲間がいること、そしてAOTS(現HIDA)・JETROといった経験豊富な諸機関やその職員方からのきめ細かなサポートが受けられることかと思えます。辛いこと、楽しいこと、悩み等も共有し、時に励まし、時に指導してくれる人たちがいることは、大変心強いです。

本邦の若者が内向きだといわれる様になって久しいと思います。本制度の様に、現地に滞在し内側から体験できる機会はそうないと思います。そこで得られる経験は海外旅行や出張等では得られないものばかりです。一歩勇気を出して挑戦する価値があると思います。

現在の活躍の様子



2014年11月からインド企業に勤務中(現地の展示会風景)



2014年11月からインド企業に勤務中(同僚と会社創立記念祭に出席)

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013年度	インターン番号	TA212	タイプ	提案型
派遣国	インドネシア			派遣都市	ジャカルタ
受入機関	PT PERTAMINA (PERSERO)				
受入機関概要 (事業内容等)	インドネシア国営石油・ガス会社 (インドネシアにおける石油・天然ガスの探鉱/開発/生産/精製/輸送/国内外販売と、上流から下流まで一貫したエネルギービジネスモデルを展開する)				
派遣期間	2013年12月16日 ~ 2014年3月5日				
現在の所属先	エルエヌジージャパン株式会社			当時の所属先	同社 中部支社
現在の所属部署	事業第一部			所在地	東京都
区分	大企業			性別	男性

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

当社はインドネシア産LNGにおける日本買主向け輸入代行を請け負っており、「LNG輸出者」であるインター先とは常日頃からコミュニケーションしておりました。LNG輸出業務のプロセスを理解し、日頃の業務効率化を図ること、また、インドネシア国内のエネルギー需要が高まってきている中、内需を満たすべくワークしているプルトミナの動きを理解し、彼らとの協業の可能性を探ること、この二点を動機にインターンシップに参加させて頂くこととなりました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

インドネシアのエネルギー事情やプルトミナのビジネス展開に関する座学、LNG輸出業務研修、各種施設見学等を体験しました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

プルトミナ社員との友好的関係の構築、インドネシアにおけるプルトミナの立場や国内ビジネス展開への理解は十分に達成することが出来ました。従って今回インターンシップで得られた経験や知識を所属部署での業務効率化に活かすことが出来ました。また3ヶ月間のインターンシップを通じ、インドネシア語や英語のスキルを向上させることも出来ました。

しかし当社がプルトミナに対し提案できる新規事業のヒントという観点では「当社だからこそ提供できる付加価値」という面で更なる追求が必要であると実感することとなりました。現在はプルトミナの現状をフォローしつつ、引き続き新規事業獲得に邁進している最中です。

インターンシップ風景



東カリマンタン島に位置するポンタン LNG基地の視察時



ジャカルタの発電設備視察時

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

先ほどお伝えした通り、当社はインターン先であるプルタミナとは常日頃からコミュニケーションしております。しかし彼らがどういったプロセスを踏んでLNG輸出業務を実施しているのか具体的には認識しておりませんでした。インターンシップを通じて彼らの輸出プロセスをよく理解することが出来、双方における業務効率化を模索できるような下地を作ることが出来ました。また今でも当方がプルタミナのオフィスに足を運んだ際は、まるで同僚のように接してくれます。諸問題が起こった際でも、彼らの内実を聴取し、よりよい解決方法を提案出来ております。

また、現在インドネシアにおいては国内エネルギー需要が年々高まってきております。内需を満たすべくプルタミナも戦略を打ち立てて事業推進している状況下、彼らの動きを理解し、彼らとの協業の可能性を探るといふ点もインターンシップの大きな目的でした。彼らの戦略は十分に理解することが出来ましたが、当社がプルタミナに対し提案できる新規事業のヒントという点ではインターンシップ中、答えを見つけることが出来ませんでした。特に「当社だからこそ提供できる付加価値」という面で更なる追求が必要であると実感することとなりました。

現在はインターン中得られた情報/彼らの考え方への理解をベースにプルタミナとの新規事業の可能性を多角的に検討している状況です。インターンシップでの経験や人脈を武器に邁進したいと思います。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

「日本から離れた異国の地で、外国人に囲まれつつ、一つでも多くのことを吸収すべく現地語や英語を駆使して四苦八苦しなから生活する」

そんな環境、中々ないと思います。旅行や留学では体験することが出来ない数々の発見があるはずです。そんな状況で自分を試してみたい、磨いてみたいと志す方は是非参加して欲しいです。ただしHIDA/JETROの方々もしっかりフォローしてくれるのでご安心下さい。

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013	インターン番号	KB205	タイプ	公募型
派遣国	ベトナム社会主義共和国			派遣都市	ホーチミン市
受入機関	Business Startup Support Center				
受入機関概要 (事業内容等)	(事業内容)青年の起業支援、経営支援をしているNPO法人 (事業所数)1カ所(従業員)9名				
派遣期間	2013年12月3日～2014年2月28日				
現在の所属先				当時の所属先	なし
現在の所属部署	市場調査・ビジネスマッチング			所在地	ホーチミン市
区分	中小企業			性別	女性

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

前職在籍中に中国を中心とした海外との業務に触れている中で、学生のころに希望していたが行動に移すことができなかつた海外生活への思いを捨てることができず、どう海外生活のスタートを切るかを再度考えていたところ、本事業を知り参加を決めました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

受入機関がサポートしているベトナム人の青年起業家に会い、どのような思いや考えで起業をしたのか、現在そのビジネスがどうなのか、今後どうしたいのかを英語でインタビューし、レポートにまとめました。またそのレポートでは私が日本で社会人として学んだ視点からもアドバイスなどを行いました。また、受入機関が主催しているイベントの手伝いを行ったり、ベトナム企業を様々な角度から体験させていただきました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

ベトナム人とベトナム機関で働いたこと、ベトナムローカル企業を訪問したこと、ベトナムのスタートアップとの交流などを通し、ベトナム人の考え方、仕事の仕方などを少し理解できるようになりました。例えば、直前のアポイントキャンセルや変更などが頻繁にあり、これを日常と捉えた上でベトナム人と仕事をする際にはリスク回避対策を事前に考えることができるようになりました。これはベトナムだけではなく他の諸外国でも同じことが言えると思います。日本の当たり前が海外では当たり前ではないという意識が芽生えたことは今後海外でキャリアを築いていく上でもとても大きいことだと思います。また、受入機関担当者やスタートアップと英語でコミュニケーションをしたことで、英語を使って仕事をするに対する恐怖心がなくなり、自信を持てるようになったこともよかったです。

さらには、日本のいい面を見直すこともできました。

インターンシップ風景



留学フェア後のガラディナー
(打ち上げ夕食パーティ)



受入機関の同僚の結婚式に参加

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

私は、インターンシップ後、在ベトナムの日系企業へ転職しました。

インターンシップを通して、ここベトナムホーチミンであれば志願していた海外生活ができると感じたので就業を決意しました。

現在の担当業務はビジネスマッチングとよばれる、企業と企業をつなぐことです。日々、ベトナム企業と日系企業をつなぐための業務を行っております。

ベトナム企業とのやりとりでは、インターンシップで短い期間でありながらもしっかりベトナム企業やベトナム人と交流していたことから、ビジネス文化の違いなどに驚くこともなく、事前のリスク回避も考えながらスムーズに業務を行うことができていると思います。

その他にも、本業務を行うためには多くの情報が不可欠です。先輩や同期インターン生からの情報や紹介された人脈を頼りにしていることも多々あります。スムーズに在ベトナムコミュニティに入れたのは彼らの協力のおかげだと思っています。また、仕事やクライアントなどを紹介いただくこともあり、同じHIDAインターン生との人脈や彼らから得られる情報が現在の業務にも強く生きていていると感じています。

また、驚いたことに現在の所属企業が本インターンシップの受入機関として登録されており、上記業務と平行しインターンシップ事業も担当しております。オリエンテーションや報告書等の流れもよくわかっているのもスムーズに受入れ業務を行うことができていると思います。またインターン生がスムーズにインターン活動をはじめ、十分な経験や成果を出せるようサポートもできているのではないかと考えています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

海外インターンシッププログラムはたくさんありますが、その中でも本インターンシップ制度は、私のように無所属の社会人、学生、様々な業種の会社員などが参加し、同時にオリエンテーションや研修を行い一斉に派遣され、帰国後報告会などもありインターン生同士が自然に仲良くなれます。また元インターン生同士ということでもHIDAつながりで仲間意識ができすぐに打ち解けることができます。これらが本プログラムの魅力だと思います。帰国し1年以上が経っておりますが、今でも仕事やその他を通し先輩や同期インターン生とつながっており、本インターンシッププログラムにはとても感謝しております。ぜひ活用されることをお勧めします。

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013	インターン番号	KB039	タイプ	公募型
派遣国	ベトナム社会主義共和国			派遣都市	ホーチミン
受入機関	Brilliant Chip Joint Stock Company (Chip Sang)				
受入機関概要 (事業内容等)	・省エネソリューション(ESCO事業) ・家電製品販売 ・不動産投資、オフィス賃貸 ・ITサービス ・社員約50名				
派遣期間	2013年9月18日 ~ 2013年12月14日				
現在の所属先	株式会社IHI		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	エネルギー・プラントセクター 品質管理部		所在地	東京都	
区分	大企業		性別	男	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

- 1.外国の文化、宗教、歴史などを知り、現地の人々の立場およびニーズを理解することが、今後の国際的なビジネスマンに求められる能力であると考え、その能力を獲得するために応募した。
- 2.ベトナムでの省エネ製品の設計や省エネソリューション業務を行い、省エネ製品の技術的知識や設計手法を身に付け、IHIのエネルギープラント事業の計装制御機器設計に活かすため。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

- 1.省エネソリューションプロジェクト(ESCO事業)に参加した。省エネソリューションの営業や進行中のプロジェクトの現場へ同行し、食品会社や製薬会社など多くのベトナム企業を訪問した。またLED照明メーカーや照明デザイン会社など、ベトナム国内外の取引先との会議に出席した。
- 2.日本の省エネ技術を紹介した。LED照明、Chillerなどの日本メーカーの情報提供を行った。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

- 1.省エネソリューション業務を通じて、LED照明、Chillerなどの省エネ製品の技術的知識を身に付けることができた。また製品展示会への参加やベトナム人技術者との対話で、ベトナムの計装制御機器の仕様や品質を理解することができた。
- 2.受入期間の社員とは日々の仕事や、プライベートでの交流を通じて、非常に良い人間関係を築くことができた。またお客様、取引先の多くの方々と会う機会に恵まれ、ベトナムに人的ネットワークを構築することができた。
- 3.ベトナムの文化、宗教、歴史について学ぶことができた。自分自身のものの考え方の視野が広がり、ベトナム人の立場や考え方を理解することができた。
- 4.仕事やプライベートで英語を使う機会が多くあり、スピーキング能力を中心に英語力が向上した。

インターンシップ風景



取引先の紡績工場見学



受入期間での朝礼(毎週月曜日)

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

私の所属しているIHIのエネルギー・プラントセクターでは、国内外の数多くのエネルギー・プラント設備のエンジニアリングを行っている。近年海外案件が増加しており、職場も国際的な環境になっている。私は、インターンシップ参加時は計装・制御設計を担当し、現在は、品質管理業務を担当している。

インターンシップ終了後には、LED照明、Chillerなどの省エネ製品の技術的知識やベトナムで学んだ計装制御機器の知識を計装・制御設計や品質管理業務に活かした。また、インターンシップでの経験や英語能力の向上が評価され、国内プロジェクトから海外プロジェクトの担当に変更なり、海外のプロジェクトを中心に仕事をするようになった。インターンシップでは、英語でのメールのやり取りや英語の書類の読み書き、英語での会話をする機会が多く、英語に慣れていたので、海外プロジェクト担当になってもあせることなく、英語での業務に対応することができた。また、社内外の外国人とも自ら積極的にコミュニケーションをとれるようになり、コミュニケーションの幅が広がった。

インターンシップ終了後も、インターンシップ同期生との交流は継続しており、情報交換を行っている。普段の私の業務ではあまり関わらない業界や仕事の話が聞けるので、とても興味があり、有意義な情報を得ることができる。またベトナムのホーチミン市を訪れる際は、インターンシップの受入期間と仲介機関を訪れるようにしている。受入期間や仲介機関の社員と情報交換を行い、ベトナム現地の生の情報を入手している。将来的に、IHIがベトナムでエネルギー・プラント設備の建設を行う際は、ベトナムでの人的ネットワークを活かして仕事をしたいと考えている。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

社会人は、就職後に自分の所属している会社の海外事務所で仕事をする機会はあると思うが、海外の現地企業で仕事(インターンシップ)ができる貴重な機会は他にはないと思う。また、大学生も海外留学とは違った、貴重な経験ができると思う。経済産業省、HIDAの方々の強力なバックアップがあるので、このチャンスを逃さずにインターンシップへ参加し、自己の成長につなげてほしいと思う。

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014年度	インターン番号	TA2006	タイプ	提案型
派遣国	インドネシア共和国			派遣都市	ジャカルタ
受入機関	PT. Astra Daihatsu Motor				
受入機関概要 (事業内容等)	自動車、産業車両、その他各種車両およびその部品の製造、販売等				
派遣期間	2014年12月14日～2015年2月28日				
現在の所属先	PT. METALART ASTRA INDONESIA			当時の所属先	(株)メタルアート
現在の所属部署	PPIC Department (生産管理)			所在地	インドネシア
区分	中堅企業			性別	男

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

現地ニーズの把握と商習慣の理解

海外進出するに当たり、QCD面でよりお客様に満足して頂けるようニーズを理解する。語学も含め、商習慣を理解し現地とのコミュニケーションを図る上での重要点や留意点を理解し、海外事業においてよい提案ができる人材になる。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

車両メーカーの工場にて、操業管理に始まり、部品輸入やモデルチェンジに伴う業務など、現地現物で実務担当者とコミュニケーションを取り、現地ニーズを知った。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

- ・当社現地法人の得意先との人脈作り。ローカル社員の仕事に対する考え方を知った。
 - ・ローカルスタッフと多くコミュニケーションをとり、何事も状況をただ述べたり書いたりする事なく現地・現物で確認し、一つ一つ問題に深く入り込めた。
 - ・受入機関は歴史も長く、ローカルスタッフも自立した仕事が出来ていた。自社の目指す姿として、自ら考え行動し意図することを伝える事の重要性を学んだ。
- また前記達成のために、いかに相手が何を求めているかを考え行動する事で、自身の資質の向上につながった。

インターンシップ風景



小グループでの毎朝会議



安全パトロール

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

インターン終盤には、既にインターン後のインドネシア出向が決まった。

当インターンを経験した事が自信につながり、出向直後から積極的に業務に入り込むことができ、スタッフの生々しい困り事や現場改善と一緒に始めることができた。

具体的にはごく単純なことが多いが、総じてどの業務にも自分の意志がどうあるかを念頭におき、相手に伝えることが重要であることを学んだ。

- ・ 製品の置き場整流化、在庫管理の見える化（どういう結果を望むのか）
- ・ 短期・中期での生産（在庫）計画（何を管理するのか）
- ・ その他設備の負荷状況の確認手法（どのようなリスクを見ているのか）等々

管理内容は過去より変わらないが、なぜそうなったのか、という観点で相手に伝えることで理解を得るという事が重要であることをインターンで学んだ為、出向後の業務がスムーズに進んだ。

やはり違う言語を使う者同士、また商習慣も違う者同士と一緒に仕事をする為、「なぜ」ということを如何に見える形で相手に伝えるかが重要であると考えようになった。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

体験できる業務内容はそれぞれあるとは思いますが、現職と関連しなくても意味の無いものにはなりません。現地スタッフの考え方、日本との違いを意識して仕事をすると必ず見えてくるものがあるかと思えます。

グローバル人材になるきっかけとしては、この上ない事業です。

海外経験はなくても、言語は後から付いてきます。チャンスを利用して積極的にチャレンジする事で、自身の幅を広げて下さい！

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014	インターン番号	KB1011	タイプ	公募型
派遣国	セルビア共和国		派遣都市	ベオグラード	
受入機関	PE Electric Power Industry of Serbia (EPS)				
受入機関概要 (事業内容等)	発電、配電、石炭採掘を担う国営企業 発電量:37443MWh 採掘量:39Mt 従業員数:31569人 (当時のデータ)				
派遣期間	2014年9月3日 ~ 2014年11月29日				
現在の所属先	中央大学	当時の所属先	同左		
現在の所属部署	経済学部	所在地	東京都		
区分	学生	性別	女性		

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

私は以前から、大学で学んでいることが社会でどう使うことができるのか、海外で働くとはどういうことかを知るためにインターンシップを探していたところ、母からこのインターンシップ事業について教えてもらいました。専攻している経済と環境に深く関わっているという理由で、数あるプログラムの中から、電力会社であるセルビアの電力公社を派遣先の第一候補として申し込みをしました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

まず、英語で書かれた各種報告書や経済白書、環境白書などを読み込みました。2ヶ月目からニコラテスラ火力発電所、コルバラ石炭採掘場、コルバラ火力発電所、コストラツツ火力発電所、ジェルダップ水力発電所を実際に訪問させていただきました。3ヶ月目にはセルビア環境保護局で環境対策について、エネルギー鉱業省でガスやオイルの市場に関わる規制や近隣諸国、EUとの協力、今後のエネルギー戦略や再生可能エネルギーについてレクチャーを受けました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

セルビアは現在EUに加盟するため、発電分野においてEUの基準に合致することを目標とした環境対策や資源効率対策、環境保護活動などを実施しています。インターンシップを通じてこれらのことについて広く深く学ぶことができました。また、与えられた英語の資料やレポートを読んで勉強し、石炭灰利用というテーマを自分で設定して、実際に現場調査を行いレポートを作成するという貴重な体験もできました。意思疎通、調査、報告の全てを英語で行わなければならなかったのがかなり苦労しましたが、結果的に英語力がかなり向上しました。

様々な場所や部署に実際に行き、それぞれの異なる立場や見方を直接伺うことができたのがとても良かったです。これにより物事を多面的に捉える思考力が向上したと思います。

インターンシップ風景



ニコラテスラ火力発電所A



ニコラテスラ発電所B
石炭灰貯蔵場

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

現在、私は中央大学の経済学部4年生です。長谷川教授の国際経済ゼミに所属し産業連関分析について学んでいるとともに、FLP環境プログラムのハリスン教授の環境政策ゼミで環境政策について学んでいます。インターンシップの経験を大学のゼミで紹介したところ、先生から石炭灰の利用は大変難しい問題だがよく勉強できているという反応がありました。友人には積極性を高く評価されました。今は、日本の途上国へのインフラ輸出と石炭灰の利用について卒業論文を執筆中です。セルビアで考えたことを深めるとともに、現地で調査したことを取り入れた形でまとめたいと考えています。

インターンシップへ行く前は、自分のキャリアプランは漠然としていました。なんとなく途上国の発展に関わる仕事に携わりたいと思っていましたが、どんな分野でどのような仕事をしたいかは全く考えていませんでした。しかし、セルビアの発電関連国営企業でインターンシップを行ったことで、途上国の経済発展の支援として、発電事業からインフラ整備を行うことで経済発展と環境問題への対処に大きく貢献することができるようになりました。そこで帰国後、この分野の企業を中心に就職活動を行い、最終的に電力プラントの建設とその保守を中核事業とする株式会社クリハントより内定を得ることができました。面接では積極的にセルビアでのインターンシップの体験について話をしたので、そのことが評価されたのだと思います。

同社は、日本の殆どの発電所の電気・計装・機械工事に参加してきた実績を持つ独立系総合エンジニアリング会社です。現時点では、勤務地、配属先は未定ですが、入社初年度は発電所にて研修を受ける予定です。

同社は、国内事業だけでなく、開発途上国を含め20数カ国に海外事業を展開しており、特に、電力需要が高まる新興国に対して専門家の派遣、技術者育成の受け入れなどを行い、技術移転を積極的に行っています。可能であれば、海外事業部門で働き、インターンシップの経験を活かして海外でのインフラビジネスをサポートする仕事がしたいと考えています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

海外へのインターンシップはハードルが高いと思っていましたが、経済産業省、HIDA、JETROのみなさんの強力なバックアップがあれば、あとは自分の気持ち次第でした。このような素晴らしい方々に支えられながら自分の先行き不透明なチャレンジができる機会はまだ2度と無いと思います。このインターンシップには自分のやりたいこと、将来の希望のためになるプログラムがきっとあります。また、参加することで大きな収穫があるとともに、予想していない形であっても自分の希望をかなえるキーポイントにもなります。まずは応募するだけなら大きな負担は無いのでチャレンジされてみてはいかがでしょうか。

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014	インターン番号	KB2014	タイプ	公募型
派遣国	スリランカ民主社会主義共和国			派遣都市	コロンボ
受入機関	Japan Sri Lanka Technical and Culture Association (JASTECA)				
受入機関概要 (事業内容等)	HIDA研修生の同窓会であり、スリランカで人的資本の開発と技術の伝承を行っている。				
派遣期間	2014年12月01日 ~ 2015年2月26日				
現在の所属先	東京大学		当時の所属先	東京大学	
現在の所属部署	実践政策学コース		所在地	実践政策学コース	
区分	学生		性別	男性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

1. 教育政策(特に高等教育政策)に興味があり、日本のみならず、他国のことも深く知ることで、複合的に考えられるようになりたかったから。特に、発展途上国の政策形成の現場を見たかったから。
2. 英語を用い、異文化の人とコミュニケーションをとり、お互いの意図を理解しあいながら、物事を前に進めていく経験をする事は、今後の人生に役立つスキルになると思っていたから。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

1. スリランカ高等教育省や各地の大学におもむき、スリランカの高等教育の現状を調べ、レポートを書くこと。それを通して、現場の授業から政策的課題を発見することを目指していた。
2. その他、スリランカという国を理解するために、紅茶工場の見学、陶器工場の見学などを行い、ビジネスモデルも理解することで、スリランカの経済構造についても理解を深めた。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

1. 大きく文化が異なり、まったく期待もされておらず、まったく信頼もなく、まったく知識もない状態、つまり完全に真っ白の状況から、コミュニケーションを積み重ねることで、課題を発見し、自分が役立っていることを見つけ、徐々に融け込んでいく経験ができたことは、日本では決して学ぶことができないことであったと思う。
2. 自国ではないからこそ、政治・経済・文化・教育と多角的に、そして客観的に観察することができた。様々な場面で知った情報が、少しずつスリランカの知られざる姿を映し出していく過程を体感できたのはとても幸せなものであった。ここまで一国を俯瞰して、かつ集中的にみることはこの経験がなければ、恐らくなかったらと思う。

インターンシップ風景



キャラニア大学で大学院生と



ルフナ大学での講義

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

1. 現在、国際機関が行っている教育のプロジェクトで働いているが、そこで、まったく一から周囲に溶け込みながら進めていくスキルが大きく役立っている。日本とスリランカで大きな違いはあるものの、いったい、誰とコミュニケーションをとって、どういった形で何を頼むかという基本的な着眼点は変わらず、自動的に何をすればいいかが見えるというのは、プロジェクトそのものに集中できるということもあり、非常に身になっている。スリランカでも、何度もコミュニケーション不足のために煮え湯を飲まされる経験をしたが、その経験が、一つひとつ丁寧に確認すること、まず最初に誰に話を持っていけばいいかということなど、多くの点で今の僕を助けてくれていると思う。
2. 卒業論文(教育政策を題材にしています)をはじめとして、政策を考えるときに、複合的な視点で見ることができるようになった。スリランカでは、ほんとうにたくさんの方にお世話になった。ときには、スリランカでも有数の実業家であったり、ときには、スリランカで有数の文筆家であったり、ときには、スリランカの大学の学長であったり、省庁の官僚の方であったり。経済に携わっている方から、政治、教育に至るまで、多くの人と話をしたことで、多様なスリランカ像を知ることができた。これは、このインターンシップでなければ不可能だったと思う。駐在員としてスリランカにいれば専ら経済の観点から、大学教授としてだったら大学からということになるだろうからである。そういう意味で、様々な立場を縦横無尽に駆け抜けられたことは、非常によい経験だった。このように多角的な視点を体得したことで、教育政策の分析といったときにも、労働市場はどうか、知識人階層は社会でどのような役割を果たしているか…など多様な論点を考えることができる。
3. 海外に友人ができることで、世界がもっと身近になった。様々な大学を訪問し、そこで多くの友だちができた。インターネットを介して今でもそれらの友だちとは繋がりがあり、スリランカの状況がリアルタイムでわかる。シンハラ語をそこまで使えるようにならなかったのも、断片的な情報に留まっているものの、それでも日本で日々スリランカの情報に触れることは、様々なことを日々相対化し、海の向こうのことに思いを馳せるために、よいきっかけになっている。
4. スリランカでは、多くの人が、国のことを考え、故郷のことを考え、家族のことを考えていた。そして、出逢った多くのスリランカ人は、かつて日本で御世話になった人のことを常に考えていた。そのおかげで、恩返しという形で、僕はほんとうにスリランカでよくしてもらった。これは、僕もスリランカに恩返しをしなければならぬということだと思し、同じく、日本でスリランカをはじめとする諸外国の人に技術を教え、有効の礎を築いた先人に感謝しなければならぬということだと思ふ。だから、自分がそのような存在にならなければならないと身が引きしめる思いである。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

確かに、その気になれば日本でも色々な経験を積むことができます。しかし、海外に出ることで、日本で普段自分がいる環境が、いかに「過保護」なものなのか気付くことができます。すべてが自分の責任で、すべてが自分次第で、真っ白なところから始められる経験をぜひ一度は味わってみてください。「過保護」な環境を飛び出して、自分の足で立つ経験を一度でいいからしてみてください。そのとき、世界の見え方も、自分の人生に対する考え方も、大きく変わってくるかもしれません。皆さんが実りあるインターンシップを送ることができるよう、心からお祈り申し上げます！

現在の活躍の様子



来日したJASTICAメンバーと



教育プログラムのファシリテーター

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014年	インターン番号	TA1033	タイプ	提案型
派遣国	トルコ共和国		派遣都市	イスタンブール	
受入機関	IKV(Economic Development Foundation)				
受入機関概要 (事業内容等)	1965年にイスタンブール商工会議所によって設立。トルコのEU加盟促進が目的。EUとトルコの関係について研究し、トルコの会員企業に情報発信を行う。				
派遣期間	2014年9月8日 ~ 2014年11月29日				
現在の所属先	AGC Chemicals Europe		当時の所属先	旭硝子(株)	
現在の所属部署	Commercial Centre		所在地	オランダ	
区分	大企業		性別	男性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

- ①現地での市場調査: 当社化学製品にとってトルコは戦略的に重要な市場であり、インターンシップを通じて現地企業とネットワークを構築し、今後のビジネス戦略策定に寄与したいと考えました。
- ②国際ビジネススキル/コミュニケーション能力の向上: これまで出張ベースでは海外での業務を行っていましたが、実際に現地企業に籍を置き活動することで、海外でも通用するような人材になりたいと考えました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

- ①トルコにおける投資奨励制度の調査・・・トルコ投資促進機関や工業団地訪問
- ②当社製品と現地ニーズとの整合性調査・・・現地ゼネコンなどの企業を訪問、ヒアリング
- ③各種工業会とのネットワークの構築・・・化学関係の各種団体とコンタクトし、人脈形成

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

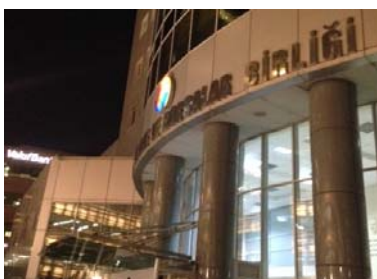
①現地の商習慣や文化に関する知識取得

実際に現地で生活することにより、様々な文化を肌で感じる事が出来ました。元々決まっていた受入機関が派遣後一週間で解体され、新たな受入機関を探すという想定外の事態も発生しましたが、それも含めてトルコの文化を学ぶことが出来たと思います。また、商習慣についても実際に現地で活動されている日系企業の方々より様々な情報を得ることが出来ました。

②100社以上の企業とのネットワーク構築

現地企業/日系企業合わせて100社以上の方々とコンタクトすることが出来ました。そのネットワークは現在の仕事においても継続して有益なものとなっており、インターンシップに参加させて頂いたお陰だと思います。

インターンシップ風景



受入機関のビル



IKVでのカンファレンス風景

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

帰国後2015年5月より当社化学品事業の関係会社であるAGC Chemicals Europe社(オランダ)に派遣となりました。そこでは今回滞在していたトルコを初めとする新興市場での営業・マーケティング活動に取り組んでおります。インターンシップにて獲得した情報や人的ネットワークはオランダでの業務に大いに役に立っており、現在でも二か月に一回のペースでトルコを訪問している状況です。得られた人脈経由で新たなお客様候補を探し出すことが出来たり、多くのトルコ企業が集まる製品説明会に説明者として参加することが出来たりと、現在の業務に活かすことが出来ていると思います。

個人的にも海外で仕事をする度胸が身についたと感じております。インターンシップでは自ら様々な企業に飛び込んでいかなければネットワークが広がらず情報も獲得できない状況であったこともあり、現在オランダでもネットワーク軽く活動できているのではないかと考えております。トルコ以外の中東諸国にも足を伸ばしビジネスチャンスを探していきたいと思っております。

また前述のように現地派遣後に受入機関が変更になるなどといったハプニングもありましたが「こういった国々では何でも起こり得る」という意識を持つに至り、様々な状況にフレキシブルに対応できるようになったかと思っております。

プライベートでもインターンシップの経験が活かされております。インターンシップ時に知り合いとなった方のご友人が現在オランダに在住しており、現在では家族ぐるみの付き合いをしております。インターンシップで培ったネットワークが広がっており非常に有意義であると思っております。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

インターンシップでは様々な困難も予想されますがそれだけの成果を得ることができる良い機会だと思います。私の場合は特にですが、JETROやHIDAの方々に非常にサポートして頂きました。安心して業務に打ち込むことができると思います。

現在の活躍の様子



トルコでの製品説明会の様子

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014	インターン番号	KB1140	タイプ	公募型
派遣国	ミャンマー連邦共和国			派遣都市	ヤンゴン
受入機関	Jewel Collection Manufacturing Co., Ltd. (United GP)				
受入機関概要 (事業内容等)	受入機関は宝石類の製造販売の民間企業。実際にインターンをすごした会社はグループ会社で、ビル・マンション等の建設クライアント。				
派遣期間	2014年9月3日 ~ 2015年11月28日				
現在の所属先	(株)カシワバラ・コーポレーション		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	海外プロジェクト本部 ヤンゴンオフィス		所在地	ヤンゴン	
区分	中小企業		性別	男性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

社内でミャンマー進出の可能性を探る話が出た際、前年度にHIDAのインターンシップでミャンマーに派遣された方と出会い、いろいろ情報を聞くことが出来たのがきっかけです。また、実際に進出する前に先行して現地入りすることにより、パートナー企業の発掘やキーパーソン、すでに進出している日系企業とのネットワーク等の構築が出来、スタートが切りやすくなると考えたのが動機になります。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

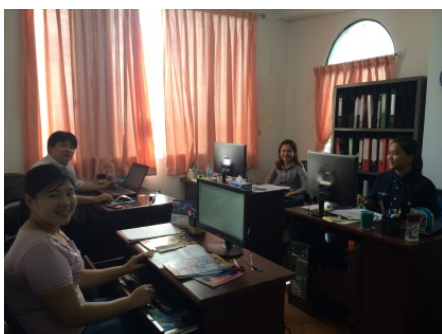
受入機関ではすでにプロジェクトが動いており、下請け業者やメーカーとのミーティングが数多くされていましたので、まずそのミーティングに参加させていただきました。そのミーティングや建設現場管理を通してミャンマーでのやり方や考え方を学びました。また、こちらからの提案として日系企業や日系メーカーを紹介し、少しでも日緬一緒にプロジェクトを進められないか模索しました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

ミャンマーの現地機関に籍をおかせてもらったことで、自力では時間のかかるローカルネットワークの構築をスムーズに行う事が出来ました。加えて、現地従業員と一緒に働くことで大まかではありますがミャンマー人のやり方、考え方、文化、習慣などを肌で感じる事が出来ました。また、すでに進出されている日系企業にインタビューすることにより、実際に抱えている問題や今後どのようにしていくことが重要であるかとアドバイスを頂く事が出来ました。

今回参加して良かったことは、今までとは違った角度から物事を見る機会を得たことです。就職してしまえば、なかなか他の会社に所属する機会はないのですが、現地機関に受け入れてもらうことで、日系企業とは違う考え方や、見方をフラットな気持ちで感じ取る事が出来ました。

インターンシップ風景



現地事務所風景



協力会社とのミーティング風景

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

私の勤めている株式会社カシワバラ・コーポレーションはインドネシア・台湾にそれぞれ事務所を開設している塗装施工会社になります。加えて、ミャンマーに2015年7月、新たにヤンゴン支店を開設致しました。私自身も今年5月よりミャンマーに駐在し、支店オープンのための準備で動いておりましたが、無事開設する事が出来、ヤンゴン支店の責任者を任されています。

今年開設いたしましたヤンゴン支店進出の話はインターンシップに参加する以前より進められてはいましたが、最終的には今のインターンシップで得た情報をもとに進出すると決定されました。今回得た情報といえども、進出するのであればどういった情報が必要で、どういった情報を持って帰らないといけないかを計画しておりましたので、インターンシップの経験(情報収集)がそのままヤンゴン支店開設へ活かしたという結果になっています。

今回のインターンシップを通しての目標のうちの一つに、『近い将来、このミャンマーでのインターンシップで友好的関係を構築した方々と一緒にASEANで広く仕事をしていく』というのがありました。そして今、支店を開設してから実際にインターンシップ中に友好的関係を構築できた企業より引合を頂き、またインターンシップ中に友好的関係を構築できたパートナー企業と一緒に仕事をする一歩手前まで来ております。インターンシップ中に目的をもって行動した結果が今につながっていると実感しています。また、インターンシップに参加することがなければこんなに早く結果が出ることもなければ、友好的関係を構築できることもなかったと思います。

至極当たり前の事なのかもしれませんが、インターンシップ事業を通じて知り合った人たちとのネットワークが基盤になり着実にそのネットワークが広がっているのを実感しております。また、ネットワークを構築できたことが今インターンシップの最大の成果だとも思っています。そのネットワークの中にはもちろん同期生も入っているのですが、私同様ヤンゴンに支店を出した方もいますし、これから出す方もいます。また、出張ベースでヤンゴンに来られる方もいます。いろいろな立場ではありますが、同期生とは今でもたくさんの情報を交換し更なるネットワークの拡大を図っております。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

参加する立場によって目標や、やりたいことは違ってくるとは思いますが、現状とは違う環境に身を置くことによって今まで考えもしなかったことや逆に考えなくてはいけない事など、幅を持った考え方や見方を発見できると思います。

HIDAやJETRO等、必要なバックアップはありますが、現地に入られましたらご自分で切り開いていかないといけない事が増えてくると思います。自分がどうしたいのかどうやりたいのかをしっかりと持って行動すればこんなに素晴らしい制度(インターンシップ)は他にないと思いますので、チャレンジをお勧めいたします。

現在の活躍の様子



弊社ヤンゴンオフィス風景

(殺風景ですが。。。)

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014年	インターン番号	TA1022	タイプ	提案型
派遣国	インド		派遣都市	ワオーディア	
受入機関	Sanghvi Forging & Engineering Limited				
受入機関概要 (事業内容等)	産業用・重工業の分野向けの熱間鍛造品を製作する素形材メーカー(従業員300人) (ドイツ・イタリアの最新鍛造設備を保有、Oil & Gas 発電等の社会インフラ事業領域で国内60%・海外40%の取引を実施)				
派遣期間	2014年9月11日～2015年2月6日				
現在の所属先	大昭産業株式会社		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	開発営業部		所在地	大阪市	
区分	中小企業		性別	男	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

3年程前からインドパートナー数社と事業を進める中で、ビジネスの商慣習・文化の理解をより一層深める必要があると感じていたところに、本事業に出会いました。インドの中核事業である熱間鍛造ビジネスの製造技術・受入企業の強みの理解を深め、印→日での事業を促進させるためにインターンシップに提案型として参加しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

熱間鍛造品の製造工程や品質管理を現場で学びながら、業務フローと製品の特徴を理解していきました。海外営業部や受入企業の社長と議論しながら、製造現場から知り得た情報を基に、営業資料を作成、インドから営業も行いました。また原材料を日本から購入したいという要望が受入企業からあり、日本のSteelメーカーへ問い合わせを行いながら、日印ビジネスの可能性を探し続け、受入企業が出展している展示会へ参加をしながら、受入企業の事業の理解を深めていきました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

製造業に欠かせない三現主義(現場・現物・現実)を受入企業を基準にして検討する事ができた事、また何をクリアする事でインドビジネスを発展させられるかを見つける事ができた事は自身の目標であったので、大きな意味がありました。

また受入製造メーカーのQuality・Cost分析を製造現場から現地スタッフと話しながら行えた事、同時に各個人が何を考えながら仕事を行っているかを知れた事は企業の強み(Strength)・弱み(Weakness)を理解しながら、商慣習・文化や今後の課題を知れた事でもあり、インド事業に大いに役立ちます。

異国で生活を行いながら、外から日本という豊かな国を考える事ができた事、グローバルな仕事を行うには何が必要であるかを体感できた事は何事にも変えられない経験となりました。

インターンシップ風景



熱間鍛造中



海外営業部メンバーと

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

私が働く大昭産業株式会社はモノづくりに優れた製造業のフィールドで事業を行い、一部製造を行いながら、技術情報商社として日々活動しています。

日本国内・国外の新技术・製品を取扱い、その中で私が所属するPlant & Instrumentation事業部は海外メーカーの産業設備・技術・製品を日本の重電プラント顧客へ提供しております。

この事業部は今まさにインドGujarat州を始めとするインド事業に注力していて、私が提案型インターンシップに参加した事で、受入パートナー企業を十分に知るきっかけとなり、組織内の人間関係を始め、生産・品質管理や現状の工場生産能力、今後の設備拡大プラン並びに日本マーケットへの期待など事業推進には必要な事を習得できた事は、今後の事業拡大に向けて大きな可能性を作る事ができました。また、その他インドパートナー先4社ともコミュニケーションを密にする事ができ、現在のプロジェクトの受注拡大に寄与できていると思っています。

合わせて、インドオフィス進出の実現についても十分検討を行う事ができ、現在は経済産業省・JETROの支援を受けながら積極的に進めており、インターンシップ後は新ビジネスがどんどん膨らんできている状況です。

弊社は2015HIDAインターンシップ事業にも参加していて、今年度から新しく開始された現地企業のインターン受入も行っており、私の2014年度インターン先のSanghvi Forgingの会社から今年度一名が派遣されており、日印間のビジネス・文化・商習慣を議論しながら、両社の人材交流も盛んに行っております。最後に、2014年度インターン生の仲間とは現在も良好な人間関係を築いていて、7月末にはインターン同窓会を幹事代表として企画・実施致しました。

人数は十数名からの出発ですが、インターン同士の交流はまさに異業種交流そのものであり、ビジネスマッチングや新ビジネスに繋がり、また世代を超えた人材が交わることで、企業人の新しい価値の創造、それらを発信していく組織になればと願い、今後もこの活動を続けていきたいと思っております。

この繋がりは私自身のビジネス意識を高めてくれていて、常にそれぞれ業界・業種・産業分野の生の情報を交換できる大切な存在になっています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

参加を検討されている方は何かしら自身もしくはビジネスの課題や目標があり、海外志向が高い方だと思います。

私は自分自身そして日本を海外の慣れない環境から見つめて、課題を発見し、柔軟に対応しながら仕事を行い、解決に導いていく事は今後益々求められていく社会になると思います。

迷っているのであればもう迷わず参加してみてください、必ず参加して良かったと感じる日がやってくるので。

現在の活躍の様子



メーカーにて立会検査中



工場内の製品説明中

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014	インターン番号	KB1109	タイプ	公募型
派遣国	ベトナム社会主義共和国		派遣都市	ハロン	
受入機関	Quang Ninh Investment Promotion Agency (IPA)				
受入機関概要 (事業内容等)	クアンニン省への投資誘致を促進するために設立させた地方政府機関。投資カンファレンスの開催や投資政策の立案などの投資促進活動、及び、投資関連スキの一括窓口。				
派遣期間	2014年9月3日 ~ 2015年2月14日				
現在の所属先	ユニチカ株式会社		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	経営企画本部 グローバル戦略推進部		所在地	大阪府	
区分	大企業		性別	男性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

グローバル戦略推進部として全社的な海外施策を推進している中、現地政府系機関でインターンシップができる本事業について興味を持ちました。2013年にハノイに現地法人を設立したこともあり、現地の情報収集、及び、新たな現地政府系機関や企業とのコネクション形成を目的として、また私個人としてもグローバル人材として基礎を習得できると思い応募しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

- ・クアンニン省人民委員会へ進言する日本企業誘致担当者として、受入機関に対し日本企業への投資誘致活動の提案、日本企業・産業構造等に関する情報提供、日本企業団や日本政府訪問の際のアテンド。
- ・受入機関やインターン同期生のコネクションを活用した、政府系機関や企業への訪問・面談。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

受入機関が開催したカンファレンスやインターン同士の繋がりを活用し、政府機関や現地企業とのコネクションを構築することができ、弊社ベトナム現地法人にもそのコネクションを繋げることができました。また、ベトナム政府(地方政府)側として日本企業団・政府との会議に参加することにより、ベトナム政府側の理解だけでなく、日本政府のベトナム市場に対する思惑についても垣間見ることができました。インターンに参加するまで海外駐在経験がなかった私ですが、修業とも言える日本人がいない環境下で約6ヵ月間、仕事・生活することにより、英語やベトナム語の語学力、コミュニケーション能力が向上し、また、私自身の異文化適応力やストレスマネジメント力の確認もできました。インターンシップの経験により、海外で仕事をする上での自信になったと感じています。

インターンシップ風景



合同庁舎前



IPA投資促進部 オフィス

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

私が所属しているグローバル戦略推進部は、ユニチカの各組織の横串機能として事業部・関連会社の海外戦略の支援機能を担っています。それまで海外駐在経験がなかった私ですが、このインターンシップを経てからはグローバル戦略推進部員として自信を持って仕事ができるようになったと感じています。

インターン終了して間もなく、国内事業部やベトナム現地法人と共に発足したベトナム農業プロジェクトの業務主任者として取り組むことになりました。その中で、現地政府関連機関への効果実証試験依頼や、日本貿易振興機構(JETRO)・国際協力機構(JICA)・三菱東京UFJ銀行・現地人民委員会が共催する、「農業ワークショップ・ビジネス交流会」に参加しました。ワークショップの企業紹介では現地政府・企業の方々の前でインターンシップで身に着けたベトナム語で冒頭挨拶することができ、現地政府・民間企業へ大きなインパクトを与えることができました。また、ビジネス交流会ではベトナム体験談を交えながら話易い雰囲気作りを行うことができ、スムーズに商談に移ることもできました。これも約6か月間のインターンシップの成果だと実感しました。

語学面以外でもスケジュール管理であったり主体性という点も大きく向上したと思っています。インターンシップでは受入機関の担当者も通常業務があり、常には相手をしてくれません。そのような中、自分がどうしていくべきなのかを考えるようになり、意見するようになりました。また、自分がイメージしているスケジュールと現地の仕事のスピード感が合わず苦労したこともありましたが、このような経験により、各課題を期間内にどのように取り組んで行くのかを考えるようになりました。

社内ではグローバル人材の一人として、若手社員へのグローバル意識向上に向けた社内研修でインターンシップも体験談を話す機会もでき、グローバル人材の手本として一層頑張らなくてはと意識するようになりました。自己啓発の英会話もモチベーションを保って継続しています。

更にベトナムに同時に派遣されたインターン同期生との交流からは、他業種の考え方や知識を得るきっかけもなりました。現在も同じ苦労をした仲間として親交を深めていて、お互い都度現状報告していて、色々と刺激をし合っています。そして仕事とは関係ないのですが、インターンシップを通じてできた現地の友達が来日するという事で観光案内をすることになったりと、仕事以外の人脈もかなり広がりました。

インターンシップへの派遣前は半年間が長く辛いと思っていましたが、終わってみればあつと言う間でした。苦労した事もありましたが、それが私自身にとっては非常に有益だったと感じています。帰任してからまだ1年も経過していませんが、現在の業務を日々こなしていく中で、この貴重な経験のお陰でグローバル人材として成長できたと感じています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

このインターンシップはHIDAやJETROからの支援体制がしっかりしていて、現地トラブルの際でも素早く対応もしてくれますし、同じタイミングで派遣される他のインターン生とも情報交換や相談がしやすく、そのため安心して現地でのインターンシップに集中することができます。

日常生活や業務を通じて、現地人脈形成だけでなく、異文化理解やビジネス慣習を肌で感じる貴重な経験ができ、また改めて日本の良さ・凄さも再発見することができます。短い期間ですが2度とない折角の機会と思いますので、何か目標を持ってチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。

現在の活躍の様子



農業ワークショップへの参加



現地視察先風景

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014	インターン番号	KB1150	タイプ	公募型
派遣国	ベトナム社会主義共和国			派遣都市	ハノイ
受入機関	Vietnam Chamber of Commerce and Industry(VCCI)				
受入機関概要 (事業内容等)	ベトナム企業支援を中心に産業界の発展を担う機関。全国に9つの拠点が有り、職員は総勢1100名程。主な活動は、貿易・投資促進セミナーや各国企業とのネットワーキングの開催、政府への提言等。				
派遣期間	2014年9月3日 ~ 2015年2月12日				
現在の所属先	日本無線株式会社		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	海外事業推進部		所在地	東京都	
区分	大企業		性別	男	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

当時、経営戦略本部に所属しており、海外における成長戦略の一環として、当インターンシップを活用した海外人材育成プログラムを企画し、人事部へ提案しておりました。その際、私自身も参加してみたいと思い、申込んだというのがきっかけです。合格できたら、効果測定だけでなく、ひとつでも価値あるアイデア・人脈を掴んで会社へ新たな風を吹かせる契機にしたいという決意をもって臨みました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

以下の3点が主な活動でした。

- ・複数省で開催された投資促進セミナーや海外企業とのビジネスネットワーキングイベントへ出席
- ・日越ビジネスネットワーキングイベント運営やベトナム企業団日本視察のアレンジメント
- ・インターン活動を通じて懇意になったベトナム企業やハイテクパークの訪問・インタビュー

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

インターン活動を通じて得られた成果はいくつかありましたが、とくにベトナムで事業展開を強化・促進するための人脈を構築できたことが財産です。人脈として、ひとつは10,000社以上のベトナム企業を会員とし、各省や政府系機関に対しても権威とコネクションをもつVCCIと友好関係が築けたことがあげられます。関係が築けた大きな要因は、インターン中に自主企画した、ベトナム中部および南部にあるVCCI拠点におけるインターンシップです。VCCI本部であるハノイ(北部)のみのインターンシップに留まらず、地域ごとに異なる文化・言葉がある中でVCCIとの関係を深め、人脈をさらに広げることができました。

この友好関係は、即座に事業に結びつくわけではありませんが、各方面に相談できるベトナムの友人がいることは、未開の地を進む上で心強い羅針盤を得られたものと思っています。

インターンシップ風景



日越ビジネスマッチングイベント
開催前のリハーサル



VCCIダナンでのインターン時
所長との打合せにて

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

私の勤務する日本無線株式会社は、創業以来100年の歴史をもつ通信機器メーカーで、通信機器を中心としたシステム機器の製造・販売をしています。売上は日本国内が中心です。

インターンシップに参加するまでは、私は経営戦略本部で国内における新事業の企画や立上げに携わっていました。しかし帰国後は、インターンシップでの活動や経験を評価され、新設された海外事業推進部に異動となりました。海外事業推進部では、インターンをしたベトナムだけではなく、世界各国で事業進出を幅広く活動を期待されています。

例えば、ベトナムを含めた東南アジアの各駐在事務所を現地法人化するためにコスト分析をしたり、情報収集や製品売り込みのために、アジア開発銀行が主催する国際フォーラムへ出席したりしました。国際フォーラムでは、世界の政府関係者、企業代表者らと、アジアを中心とした発展途上国のスマート化について議論し、ベトナムで直に体験してきた発展途上国の実情を交えて話すことで、理解を得ることに成功しました。

その他にもフランスの国際展示会へ製品を出展しました。出展に際し、現地事務局と各種折衝を英語で行いました。インターンシップ中にも粘り強い交渉を求められることが多かったのですが、その時の経験と反省を活かし、この出展でも交渉を成功させることができました。

現状インターンをしたベトナムでの人脈や情報を直接活かしているわけではありませんが、インターンシップ中に得た経験や知識のひとつひとつが海外での活動で何かしら役立っています。インターン中では、とくに成果につながらなかったような体験も、私の知識や人格に厚みを作ってくれたのだと実感しています。

なお、VCCIの方々とは、日本出張された際にお会いしたり、情報や意見交換をしたりしています。東南アジアでは、言語や正確性の観点から情報収集が困難なことも多くありますが、何かあればいつでも相談してくれ、との力強い言葉をかけてくださっており、非常に心強い存在になっています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

当インターンシップでは、計画に沿って得られる経験や成果の他に、多くのセレンディピティがあります。仲良くなった方の紹介でビジネスが進んだり、現地の方との議論を通じてよい商品アイデアが得られたり、思いがけない新規顧客に出会ったりすることがあります。経済産業省やHIDA、JETROの皆さんの援護射撃によって、多くのきっかけやご縁を得られます。企業では今の延長上で働いていくことが多いかと思いますが、当インターンシップではこれまでにはない飛躍を得る貴重なチャンスかと思っています。国際的に活躍できるリーダーへの第一歩として、一生に一度だけしか得られない機会をぜひ活かしてみたいかがででしょうか？

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014	インターン番号	KB1120	タイプ	公募型
派遣国	ミャンマー連邦共和国			派遣都市	ヤンゴン
受入機関	Myanmar Industries Association (MIA)				
受入機関概要 (事業内容等)	ミャンマー工業会議所 セミナー及びマッチング業務				
派遣期間	2014年10月6日 ~ 2015年2月25日				
現在の所属先	世紀東急工業(株)		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	国際事業グループ ミャンマー支店		所在地	ヤンゴン	
区分	大企業		性別	男	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

当社はオリンピック後の建設業界の市場性として、海外進出を視野に入れるような考えがあり、その第一歩としてインターンシップを通じて市場調査を行って来てくれとの会社の指示があり、市場が見いだせれば支店を登記し、現地責任者へ就任させてくれるというので参加しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

インターンシップでは現地企業、外国企業、日系企業が行うセミナーのサポート業務及び、日系企業の窓口として就労体験を行いました。内容はセミナーを行う企業との日時・時間の打合せ、会場の設営を行う運営です。

また、道路事業における市場調査を行いました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

インターン受入機関を通じて、色々な方々を紹介させてもらい、その繋がりですぐに工事およびアスファルトプラント設立の必要性を見出すことができました。

今回のインターンシップ業務において、現地企業及び日系企業またはミャンマーの役人の方々など様々な人脈が構築できたのが一番良かったと思います。このインターンシップで得た人脈は、支店を登記した今も良いお付き合いをさせて頂いています。

インターンシップ風景



セミナー様子



受入機関にて

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

インターンシップ中の人脈を活かして日々、就労・市場調査で駆け回りました。実際に足を運んでの市場調査は会社から評価され、調査報告を毎度メールやテレビ電話等で報告していました。インターンシップ終了後に会社で最終報告会を行ったところ、市場性があるとの判断がされ、すぐに会社登記をすることとなりました。今ではミャンマー支店長という現場責任者に就任しており、インフラ関係の工事を追いかけています。おかげさまでインターンシップ期間中に獲得したネットワークが、その後、2案件の受注に繋がり、日々奮闘しております。

しかし、まだまだ課題がたくさんあります。もともと私は技術屋でありますので、日本人1人で運営していくには会計や経理などの事務系の能力も修得しなければなりません。今現在勉強中ですが、これもインターンシップの経験がなければできなかったことだと思い、やりがいがあります。早くスーパーマンになれるように「日々是鍛錬」で突っ走っています。

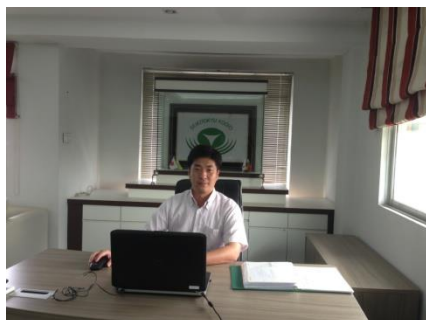
インターンシップの経験を行ったことにより、現地で同業種ではない、色々な業種の方々と繋がりが出来ました。まず日本には異業種の方と交流を深めることはそうそうはなく、とても良い人脈が構築できたと思います。このおかげでコミュニケーション能力や行動能力が向上し視野が広がりました。

私が今ここヤンゴンにいられるのはインターンシップ中にできたこの人脈のおかげだと思っています。現在でも、この繋がりは非常に大事にしており、人が人を呼ぶようにどんどん人脈が拡大している現状です。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

インターンシップを通じて自分の目標を最初に掲げていれば自分の行動が主観的にも客観的にも見えてくるので良い結果が必ず得られると思います。また、今までにない人脈を構築でき、人生においてとても良い経験となりますのでお勧めいたします。

現在の活躍の様子



ヤンゴン支店オフィスにて

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014年度	インターン番号	KB1097	タイプ	公募型
派遣国	インド			派遣都市	デリー
受入機関	Bhartiya Samruddhi Investments and Consulting Services Limited (BASIX India)				
受入機関概要 (事業内容等)	低所得者を対象とした生活向上支援事業 (金融サービス、技術支援、環境・エネルギー事業など)				
派遣期間	2014年9月10日 ~ 2014年12月25日				
現在の所属先	日本総合研究所	当時の所属先	慶應義塾大学院		
現在の所属部署	創発戦略センター	所在地	東京		
区分	大企業	性別	女性		

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

BOPビジネスと呼ばれる低所得者向けビジネスをビジネススクールで研究しており、途上国で展開されているマイクロファイナンスに関心がありました。インド最大で世界でも有数なマイクロファイナンス機関BASIXは、マイクロファイナンスに生活向上支援サービス(起業・雇用・スキルアップ・生産性向上)をセットにした商品を展開していることが特徴で、今回インターンシップに参加させていただきました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

BASIXは社会的企業でありながら、金融・教育・農業・インフラ・都市開発など幅広く事業展開しています。インターン1ヶ月目はホールディングスで全体経営や企業変遷について幹部陣から直接指導を受け、その後、傘下のグループ会社2社でインターンを行いました。1社目は過疎地向けの銀行サービス代理業の会社、2社目は起業・就業を目指す職業訓練学校で働きました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

他国のインターンでありながら、受入機関から多くの情報を提供してもらい、どのように戦略がビジョン・ミッションの達成に貢献するか、学ぶことができました。文献やデータだけでなくインタビューやサイト訪問を通じて、自分自身の目や耳で知ることができたのは貴重な体験です。インターンシップでは開発機関と民間企業が協働するビジネスに関して、大きな収穫がありました。パートナーシップを求める企業は欧米企業が多くを占めており、まだまだ日本企業がインドの中間層や低所得者層に対してビジネスを行うことは本格的には到っていないと感じました。しかし、ニーズに応える製品力など、日本企業に求められる役割・貢献はあると確信しています。インターンシップ中に進んでいた日系企業との家電事業では、製品の販売が開始し、多くの低所得者の生活向上に役立っています。

インターンシップ風景①



デスクはこのような感じ。
一時的な停電がよくありました。



本社でデータや報告書を分析するより、
サイト訪問で学ぶことが多かったです。

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

インターンシップ前から低所得者層に対する開発やビジネスに強く関心があり、実際、その事業を行う受入機関に配属され、とても良い経験と学びが得られました。特にインフラが未成熟でインフォーマル経済が発達している対象地域において、どのように社会問題の解決と、市場やビジネスの活性化を行うか、考えることができました。また、開発機関・企業・現地住民の3主体が協働し、市場やビジネスを立ち上げるアプローチについて、受入機関の多くのプロジェクトを通じて知見を得ることができました。既存アプローチ(国連の開発アプローチとBOPビジネスのアプローチ)を用いた検証により、プロジェクトの成功率を高める要因を知ることができ、自身の専門性を高められました。

このインターンシップ体験や研究内容を論文や報告書にまとめたところ、複数の企業などから話を聞きたいとお声かけを頂くことができました。インターンシップ先のBASIXのミッションやビジョン、プロジェクトの進め方は欧米や日本と異なったものが多く、多くの方に関心を持っていただきました。この手法が日本でも実施できないか、現在も検討しています。

またこのインターンシップ体験があったおかげで、卒業後に自分が関わりたい分野が明確になり、次の就職へつなげることができました。現在はシンクタンクのコンサルタントとして、国内外の社会課題に関わるプロジェクトを担当しています。自分自身が現地で得た体験や学びがあるからこそ、その課題に対して、本質を見極め、具体案を出すことができ、現在の仕事でも活きていると感じています。

現在も多くの社会的起業家や同分野の人々をつながることで、最新の情報やプロジェクト進捗を伺える環境にあることは、インターンシップの経験があったからこそだと思います。合わせて支援していただいた経済産業省やHIDAの皆様、同期のインターンシップのメンバーとの出会いはかけがえの無いものになりました。今でも継続的にコンタクトをとりながら、色々とディスカッションをしています。

最後になりますが、日本を離れ、インドで貧困解決や自立支援に関わるなかで、多様な言語・宗教と根深いカースト制度に触れました。このインターンシップは、伝統あるインド文化を尊重し、生活向上と選択を広げる技術や文明を隔てなく届ける方法について考える機会になりました。ダイバーシティが話題にあがりますが、まずは相手を知ること、理解することが第一歩になることを実際に体感することができました。途上国には先進国が支援する、という形が一般的な概念とも捉えがちですが、彼から学ぶことも多くあります。一緒に社会課題に取り組む、その姿勢を学べたことがこのインターンシップの最大の財産です。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

初めての海外インターンシップに挑戦する人も、明確な目的を達成したい人にも、本事業への参加はとても有意義で、間違いなくその後の人生に大きく関わる岐路になるはずです。支援していただける皆さんも、インターンシップの仲間も多くいますので、まずは参加に悩むより、応募してみるのが一番です。インターンシップの先輩とのネットワークもありますので、色々相談にのってもらえますよ。

インターンシップ風景②



携帯と小型プリンター(指紋認証機能つき)で銀行サービス代理業を実施(Sub-K)。



銀行サービス代理業は、銀行の支店やATMがない地方で、村の小売店の店主がエージェントとなり実施。インターンではこのようなサイト訪問を多く行った。

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014	インターン番号	KB2038	タイプ	公募型
派遣国	インド	派遣都市	チェンナイ		
受入機関	Confederation of Indian Industry (CII) Southern Region				
受入機関概要 (事業内容等)	中小・大企業など7500社以上が加盟するインド最大の経済団体。政府・企業とともに、全土で講演会、人材開発、展示会・商談会等イベントの開催や、政策提言を行う。				
派遣期間	2014年12月3日 ~ 2015年2月28日				
現在の所属先	日本タタ・コンサルタンシー・サービス(株)	当時の所属先	中央大学		
現在の所属部署		所在地	東京都		
区分	大企業	性別	女性		

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

大学で開発経済学を学ぶ中で、途上国の起業家、中小企業に関心を持ち、現地政府や経済団体が個々の企業活動をどのように支援できるかを、実務を通じて知りたいと考えていました。また日本・現地の機関による日系企業の海外進出サポート事業について学びたく、中小企業支援や、海外との商談会等を開催する受入機関(CII)に応募しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

CIIが主催するIT、自動車、中小企業サミット等のイベントに参加し、参加者がどのような情報を得て、事業に活用しているかを、講演や実地でのインタビューを通じて学びました。CIIは会員企業に向けて、5S活動を積極的に指導しており、企業、工場訪問を通じて、中小企業向け5S導入レポートの作成、インタビューによる日印中小企業間のビジネスにおける課題調査も行いました。また、受入機関主催のイベント開催にあたり、講演者、参加企業の招聘、当日の会場運営等にも従事しました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

中小企業支援、日系企業の新興国ビジネスという関心ある分野について、実務を行う人々のお話を伺い、実情を知ることができました。CIIが主催する講演会、中小企業省が主催するサミット等に数多く参加し、参加者と積極的に交流を図ったことで、経済団体、政府によるサポート、情報提供が、参加者、企業にもたらす影響を学びました。日系企業や、地場の中小企業を訪問する機会も頂き、日系・インドの企業間のビジネスにおいて、難しさや、取引先を選定するポイントを知ることができました。

また、インターンといっても業務や学習環境等が与えられることはなく、目標達成に向けて立てたインターンシップ計画を実行するには、積極的に自分の意思を伝え、行動することが不可欠でした。試行錯誤しながらも、自発的に行動する姿勢、発信力、交渉力、表現力を身に付けました。異文化下ではたらく上で重要な姿勢、所作を学び、自信に繋がりました。

インターンシップ風景



‘Tamil Nadu MSME Summit’

での企画・運営補助



受入機関主催のワークショップ

企業からの参加者、講師とともに

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

インターンシップ修了後、大学を卒業し、4月にITサービス企業に就職しました。半インド外資の企業であり、インド社員や様々な国の方と一緒に働く機会も多く、インターンシップを通じて向上したコミュニケーション能力、英語力、積極的に行動、学習する姿勢は、多文化環境の中で働くうえで非常に活きています。

入社後、研修は全て英語で行われ、英語でのプレゼンテーションの機会も多数ありましたが、インターンシップでは周囲との意思疎通、インタビュー等を英語で行っていたため、抵抗を感じることなく自然に英語での意見交換、発表ができるようになりました。特に約1か月間、インドでの研修に参加した際は、インターンシップで学んだインドの商習慣、文化をきっかけに、現地社員の方々と積極的にコミュニケーションをとることができました。3か月の滞在によって現地の文化、途上国の生活環境に浸り、得た身体的、精神的タフネスは、異文化環境下で働き、多様なバックグラウンドを持つ人々との協働することへの自信に繋がっています。

また、インターンシップで向上させた、目標・計画を立て、プロアクティブに情報を収集し、学び、結果をアウトプットする、意思を伝えるといった、一連の自発的行動を普段の業務でも実践し、評価を頂くこともありました。社会人として重要な所作を、インターンシップ活動を通じて学習でき、感謝しています。

今後の業務では、日本企業のお客様と、ITシステムの開発、保守を行うインド側のチーム間のコミュニケーションを支える機会が多く、日印のブリッジとしてそのような役割が求められています。インターンシップで学んだインドの商習慣、文化、品質、時間に対する認識の違いを理解しつつ、同時に発見できた共有する価値観も活かして、日本・インド間の情報、人の行き来を支え、ビジネスでの繋がりの発展に貢献していきたいと考えています。

インターンシップ同期生や、受入機関の方々とは、今でも情報交換を行っています。同期生は多様な業種の企業、機関へ就職し、多方面で活躍しており、将来はインターン派遣国と関わる事業を計画するなど、彼らから非常に刺激を受けています。

受入機関や、現地調査でお世話になった方々とも連絡を取り合っており、受入機関の事業活動や、現地の企業活動の近況をよく伺っています。海外、特に新興国では、人脈が非常に重要であり、人の繋がりが貴重な機会や情報を得るきっかけや、困った状況に陥った際の糸口となることを、インターンシップ活動の中で実感しました。インターンシップを通じて得た、貴重な国内外の人的交流を絶やさず、いずれ協働事業や、日本とインドとの繋がりを深めるきっかけを創出したいと考えています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

インターンシップという立場であるからこそ、様々なことに挑戦し、良い意味でたくさん失敗もできます。意外なきっかけから自分の関心を広めたり、新たな興味を持ったりすることもあります。また異文化を知るという点では、ある一定の長期間の滞在は必要であると思います。

このプログラムは、JETROやHIDAの方々の強固なサポートに支えられ、長期間異文化に浸り、なかなか飛び込むことのできない派遣先でインターンシップが出来る貴重な機会です。興味を持ち、プログラムがご自身の目標に沿っているとしたら、ぜひチャレンジされてみてはいかがでしょうか。

現在の活躍の様子



所属先の研修で、インドを再訪問した際、現地の研修生と共に

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014	インターン番号	KB1040	タイプ	公募型
派遣国	インド			派遣都市	ムンバイ
受入機関	Reliance Infrastructure Limited [Electricity Distribution Sector]				
受入機関概要 (事業内容等)	インド国内で発電、送配電事業やメトロ（私鉄）の建設と運用、道路整備事業などを展開				
派遣期間	2014年9月3日～ 2015年1月20日				
現在の所属先	メルボルン大学 大学院		当時の所属先	なし	
現在の所属部署	工学部 エネルギーシステム 修士課程		所在地		
区分	学生		性別	男性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

ムンバイを訪問した時に経済発展のスピードや将来の成長性に圧倒され、職務経験がある電力産業で経験を積んでみたいと思い、インターンシップを応募しました。またインターンシップを通じて、日本とインドの電力会社間で将来的な事業につながるチャンスを探したいと思い参加しました。インターンシップ後に進学を決めていたため、日本とインドの電力業界で必要となる知識やスキルを大学院で深めたいという動機も持っていました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

リライアンス社の電力設備や各部署での仕事内容を見学し、一般的な日本の電力設備と異なる部分についてお互いに話し合い、情報を共有するといった内容でした。インターンシップ終盤にはテーマを一つ絞り、日本とリライアンス社との電力システムを比較することで、改善できそうな部分を提案する活動をしていました。また、リライアンス社と日系電力会社の新規協力関係について話し合いを始めました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

インドの電力運用システムと機器、通信インフラのおおまかなガイドラインや基準に関する知識が得られ、日本の配電システムのアピールポイントと課題も理解することができました。また、電力システムの自動化と通信ネットワークの信頼性の改善策を提案でき、リライアンス社の電力システムの信頼性と安全面向上に貢献できるのではと思います。

リライアンス社の関連会社を訪問することで人的ネットワークも深まり、インドの職場の雰囲気や文化、コミュニケーションの取り方など貴重な経験も積めました。またインドに派遣された同期インターン生だけでなく、業種に関わらず他国のインターン生とも繋がりができたのは、このインターンシッププログラム独自の良さだと思います。

インターンシップ風景



火力発電所の石炭貯蔵所見学



ケーブル不良箇所取替え工事の見学

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

大学院の長期休暇ごとにリライアンス社でお世話になった方々を訪問し、最新の事業の動向やお仕事の内容などを伺っています。また最近では、リライアンス社より日系の電力会社を訪問し、研修施設などで電力設備の見学や、その後の人材交流や事業協力ができないか、協議を続けています。こうして双方に入り込んで、新しい案件の提案やリアルタイムの情報交換の役割を果たせるのは、インターンシップの経験がおおいに活かしているのではないかと思います。

同期のインターン生との横の繋がりも、インターンシップで得た大きな財産だと思います。例を挙げますと、インドの他のインターン生の紹介により、他州の電力会社と強くつながりがある方を紹介して頂き、現在インドの送配電線のロス軽減に向けた、インドと日本の電力会社の共同ビジネスについて、現在調整を進めています。このように、まったく事業分野が違う同期に話をしても、予想しなかったところで新しい仕事上のつながりが生まれるのも、このインターンシップ事業の魅力ではないかと思います。

また、今回のインターンシップ事業で派遣されたインターン生同士の横のつながりを継続させるため、有志の一人として同窓会を立ち上げ、今後の新興国ビジネスで協力し合える関係づくりに取り組んでいます。ゆくゆくは現在の同期生のつながりを縦に展開していき、各年度ごとのインターンシップ生をうまく繋いでゆけたらと、有志一同で模索しています。

私が現在専攻している大学院のコースでも、今回のインターンシップの経験がおおいに役立っていると感じています。このコースは、火力発電や自然エネルギーなどの発電技術を、技術的、環境的な視点、またビジネスの面から評価することにフォーカスしています。新興国では急激な需要増加で火力発電に大きく頼らなければいけない反面、二酸化炭素の削減などにも同時並行で達成する必要があり、インド政府が発電容量の増加と電力設備のスマート化を同時に進めている理由などが、はっきり理解できました。このように、インドの現場で自分が見聞きしたことが大学院で学んでいる内容と一致し、インターンシップの経験が現在の学業を充実させていると実感しています。また、アジア各国のエネルギー産業から大学院のコースに留学生が来ており、卒業後にこうした留学生とのつながりをさらにインターンシップ事業で得られたネットワークに反映できるのではないかと考えています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

新興国でのインターンシップは、旅行や留学よりも魅力的な経験ができる、とてもいいチャンスです。また、新興国の仕事現場に入り込む機会は簡単に得られるものではありません。資金面の補助や、安全面や健康面などのサポートも、HIDA、JETRO、現地協力機関の方々より頂けますので、安心してインターンシップに専念することができます。なによりも、現地でたくさんの友人や知り合いができ、また他のインターン生とも強いつながりができます。こうした機会を得るチャンスがインターンシップ事業にはありますので、学生、社会人問わずぜひとも多くの方たちに参加して頂ければと思います。

現在の活躍の様子



夏季休暇時に配電線工事を見学（インド）



授業の一環で石炭火力発電所の見学（オーストラリア）

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014	インターン番号	TA1004	タイプ	提案型
派遣国	ベトナム社会主義共和国			派遣都市	ダナン
受入機関	Foreign Affairs Department of Da Nang City				
受入機関概要 (事業内容等)	外国企業・団体に対するダナンの窓口。 その中の日本担当セクションに派遣。同セクションのスタッフは6名。外務局全体では50人程度。				
派遣期間	2014年9月3日 ~ 2015年2月14日				
現在の所属先	(株)東京ニュース通信社			当時の所属先	同左
現在の所属部署	社長室			所在地	東京
区分	中小企業			性別	男

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

弊社が制作・販売している日本のエンタメ関連商品の新たな市場として若い世代の多い東南アジアをターゲットに、同インターンシップを活用しての現地調査、関係性構築、市場開拓を行う人間を社内で公募しており、私は元々海外勤務に興味があり新しい挑戦もしたかったので、応募しました。書類選考と面接を経て、正式に派遣されることになりました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

所属企業社員としては、日系又はローカル企業を回りエンタメ商品の需要調査や関係性作り、弊社商品の売り込みや今後の協力交渉などを行っていました。受け入れ先のダナン外務局職員としては、視察に来た日本企業の対応やベトナム他都市の企業とダナンの企業のビジネスマッチング、ダナンの人たちにに向けた日本語講座などを行っていました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

ダナン外務局と継続的かつ具体的なビジネス協力をしていくことになり、その他にも複数連携できそうな企業及び機関を見つけることができました。半年滞在したことで深い関係性を構築でき、ベトナムの文化や商習慣などに関する鮮度の高い情報を得ることもできました。また、ダナン外務局を通して、ハノイやホーチミンといった他都市の業界団体や多くの日本企業とも関係性を作ることができました。

派遣中、実際にダナンの大学とホーチミンの企業とのビジネスマッチングを成立させることができ、とても嬉しかったです。自ら行動して新しい道を切り開いていくという部分で、肉体的・精神的に大きく成長したのではと思っています。

インターンシップ風景



ダナン企業と他と私企業の打ち合わせに同行



建設中の大学を視察し、関係者から話を聞く

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

弊社は日本のエンターテインメントや芸能に関連した商品製作及び情報発信をしている出版メディアの会社です。

その中で、ダナン外務局から日本に向けダナンのPRを私に帰国後してほしいというリクエストを基に相互に協力しながら、2015年8月末にダナンで開催された「越日文化交流フェスティバル2015」に、avex所属の歌手グループ・Prizmy☆を招待し公演してもらいました。公演や滞在中の撮影などを通してタレント自身の言葉によるダナンの魅力の発信などにより、日本に向けたPRに貢献できました。同イベントのため私は開催1カ月前からダナンに滞在し、ダナン外務局及びイベント会社との打ち合わせや準備など全体的な部分も含めて協力しました。

また同時にベトナム航空とタイアップし、取材及び撮影したベトナム中部の観光情報を弊社運営のWEBサイト上で展開したり、東京にオフィスを構えるダナンの市の出先機関をクライアントにした広告代理店的な動きも現在進行形で行っています。

9月下旬には、ダナンのビーチや観光名所のPRを目的に、アイドルグループ・LinQの新木さくらの写真集撮影をダナンで行い、私は現地コーディネーター兼撮影スタッフとして再渡航しました。出版不況といわれる中で経費がかかる海外撮影を行うことは昨今難しく、また治安や撮影の品質確保の点からも敬遠されがちなのですが、ダナンのリゾートホテルやブライダルと交渉しタイアップでき、外務局からは安価で良質なサービスを提供するバス会社や通訳を紹介してもらえたため、安価かつ安全に撮影を終えることができました。今後発売に向けて、弊社媒体、タレントが出演するテレビ番組、タレントのSNSなど各種メディアを通して、ダナンやタイアップ相手の宣伝などをしていきます。

全くの0からスタートした事業ではありますが、インターン時に培った経験や構築した関係性などを通して、少しずつビジネスになり始め、また大きく成長しつつある実感を持っています。それぞれの案件で得た結果を基にまた新しいチャンスと挑戦へと繋がっていくことにやりがいと責任を感じながら、日本とベトナムの架け橋になれるような事業を今後も行っていきたいと考えております。

このインターンシップがなければ全て始まらなかったことですので、とても感謝しています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

海外に一定期間滞在しインターンをするということは、特に社会人の方にとって大きな責任と覚悟が必要だと思います。また、環境や文化が全く異なる場所で確実なものを得ることは、生半可な気持ちでは難しいと思います。ただ、強い気持ちがあれば、その分チャンスと可能性が同インターンを通して得られます。そして、そのためのサポートをHIDAの方々が行ってくださいます。

強い思いや目的があるのであれば、ぜひとも参加をお勧めします。

現在の活躍の様子



フェスティバルにて歌手と観客の記念写真



ダナンのビーチでの写真撮影風景

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014	インターン番号	KB1073	タイプ	公募型
派遣国	インドネシア共和国		派遣都市	ジャカルタ	
受入機関	Ministry of Energy and Mineral Resources				
受入機関概要 (事業内容等)	資源・エネルギー分野全般を管轄しており、エネルギー鉱物資源省大臣のもと政策および方針を策定している。				
派遣期間	2014年9月30日 ~ 2015年2月28日				
現在の所属先	日本大学大学院	当時の所属先	同左		
現在の所属部署	理工学研究科	所在地	千葉県		
区分	学生	性別	女性		

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

私は新・再生可能エネルギーの政策状況について実際に働き、意見等聞きながら学び、インターンシップを通じて自身の研究や技術力の成長に繋がりたいと考えたのがきっかけです。また、将来的に技術者として活躍するためにも、世界のエネルギー問題や異文化を体感し、情報収集する能力の必要性を感じており、今後の研究活動と世界で活躍できる能力を身に着けたいと思ったからです。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

インドネシアの電力事情調査、主に再生可能エネルギー分野の波力・潮流発電についての技術動向や経済性について受入機関や研究機関、現地の大学へ訪問しヒヤリング調査を行いました。また、受入機関への訪問企業との面会やインドネシアの電力事情を紹介するウェブサイトの管理を行いました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

受入機関での作業への参加・異文化交流を通じてグローバルな総合的な活動能力を向上させました。しかし、ここでの活動は非常に困難で、特に現地の人との人脈構築に苦労しました。挨拶回りで入手した名刺のアドレスに面会要請を出しても全く連絡がとれず、インターンシップ活動が始まってからの2ヶ月間は計画通りに進むことができませんでした。アポなしで非常に大変でしたがコンタクト先の本人および関係者の個人情報(メールアドレスや携帯番号)をなんとか入手し、受入機関にオフィシャルレターの作成を依頼してから順調にインターンシップ活動を実施することができました。この時に、面会予約の難しさに気づきオフィシャルレターの重要性を学びました。ある程度の時間が経過してからになりますが、戦略的な行動の重要性、粘り強さ、交渉力、情報入手方法など実践を通じて学ぶことができ、貴重な経験となりました。

インターンシップ風景



潮流発電や波力発電に関する聞き取り調査



波力発電装置の見学

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

私が今まで行っていた研究は大型浮体構造物に波力発電装置を搭載した年間発電量についてです。この波力発電装置を大型浮体に搭載することでダンパーとしての役割を果たして浮体の安定性、さらに浮体自身での発電が可能となるため、様々な用途への活用が可能となります。例えば、海上空港やハブ空港、さらに災害時の一時避難場所施設など社会のニーズに合わせての施設提案が挙げられます。現在のインドネシアは石炭の生産量が非常に多く、インドネシアの経済を支える重要な資源となっています。そこで、この浮体構造物を利用した石炭を貯蔵する浮体についての研究も所属研究室で行われており、現地の研究機関の方と今でも情報交換をして、自身の研究には直接的に関係はありませんが、研究室のメンバーに現地の技術的な課題点などについて伝えています。

インターンシップ終了後は得た知識や情報をもとに日本における潮流発電装置を複数機配置した水車性能に関する研究を行っています。インドネシアの潮流ポテンシャルは高いとされており特にバリ島やロンボク島および東ヌサ・トゥンガラ島間の海峡で流速が2.5m/sから3.4m/s、その中でも最も流速が速い場所では北マルク州のスーラ諸島のマンゴル島やタリアブ島間の海峡で5.0m/sです。このように非常に流速の速い地域が多く点在するインドネシアですが、潮流発電に関する研究は始まったばかりで、技術面や費用などの多くの課題が挙げられました。そこで、帰国後すぐに佐賀大学で若手研究者のための海洋エネルギーに関する国際セミナー発表会に参加し、インドネシアの海洋エネルギー事情について発表しました。このセミナーには約8ヶ国の大学院生や研究員が参加しており、その中でインドネシアで訪問したスラバヤ工科大学の教授の研究室に所属している研究員もこのセミナーに参加しており、私が現地で調査した内容、特に受入機関で入手した情報についてとても関心を示していました。さらに、他大学の教授が私の活動についてとても興味を抱き、その成果に関する講演会を設けて頂いて、インドネシアの再生可能エネルギーについての事情について講演を行ったりと、インターンシップ活動で苦労して入手した情報を多くの人に提供しています。

現在はインターンシップ活動中で海洋エネルギーに関する調査で頻りに訪問した公的機関と自身の大学との人材・学術交流の提携に向けて私が現地機関と大学の架け橋となって準備を行っています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

日本の通常の生活では体験できない多くの発見や経験ができると思います。派遣後すぐは生活基盤を整えるのに大変なこともあると思いますが、日本での事前研修を含めHIDAやJETROの方々からのサポートはとても充実しています。計画通りに進まないことも多々ありますが、明確な目標があれば大きな成果として残ると思います。

現在の活躍の様子



若手研究者のための海洋エネルギーに関する国際セミナーへの参加



他大学でのインターン活動および研究に関する講演

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014	インターン番号	TA2003	タイプ	提案型
派遣国	ベトナム社会主義共和国		派遣都市	ホーチミン	
受入機関	Jesco Asia Joint Stock Company				
受入機関概要 (事業内容等)	設立2001年 日系企業 社員数約150人(内日本人5名) ODA案件等のインフラ工事を始めとした総合設備工事業。				
派遣期間	2014年12月2日 ~ 2015年2月14日				
現在の所属先	ヤマト電機(株)	当時の所属先	同左		
現在の所属部署	海外・事業開発営業部ベトナム開発担当	所在地	東京都		
区分	中堅企業	性別	男性		

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

ベトナム進出の可能性を検討するため、インターンシップに参加して現地でビジネスチャンスを発見してくれないかと上司から話があり、応募することになりました。もしビジネスチャンスを発見できれば、早期に駐在員事務所あるいは会社設立を行い、あなたを現地責任者に抜擢すると言われ、なんとか勝機を見出したいという思いを抱えながらインターンシップに参加しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

受入機関ではプラントエンジニアリング部門に配属され、そこで受入機関のエンジニアとのコミュニケーションの取り方や、業務内容や指導風景を体験しました。それから受入機関の協力を得て現地電設資材メーカー及び日系メーカーを多数訪問させていただきました。また、使用資材の種類や管理方法を把握するため複数の建設現場を実際に視察することもできました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

受入機関でのインターンシップを通じてベトナム人従業員との連携、指導方法、雇用問題を理解できました。また、インターンという立場で、かなりの数の現地電設資材メーカーや日系メーカーの方々とお会いし、商習慣や抱えている問題についていろいろお話を伺えたことがとても勉強になりました。建設現場の訪問では、使用資材の種類や管理方法の日本との違いを見極められ、その中からビジネスチャンスを発見することができました。

私がこのインターンシップに参加して、とても良かったと思うのは、各社の現場を実際に訪問して現地ビジネスに関係する人脈を幅広く構築できたことです。また、一緒に派遣されたインターンには、異業種、同業種の方がたくさんいてとても刺激になりました。今でもつながりがありいろいろな形でコンタクトを取っています。また、インターンシップに参加することで、コミュニケーション力や折衝力、柔軟性、行動力が身につきました。駐在員としての資質向上につながったと感謝しています。

インターンシップ風景



現場安全パトロール時のミーティング風景（建設現場事務所内）



TNH（スチールラックメーカー）工場見学風景 ホーチミン郊外

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

私が働いているヤマト電機株式会社は、電設資材、電子機器、環境関連機器の卸販売をしている会社です。インターンシップに参加するまでは、特需営業所の所長としてエンドユーザーに対して「省エネ」を始めとした提案営業を行ったり、営業所の業績管理や所員の指導育成を行ってきました。

帰国後、インターンシップの調査報告書や活動内容が評価され、海外・事業開発営業部ベトナム開発担当のマネージャーに異動しました。インターンシップをきっかけに始まったベトナム進出計画が本格化し、設立予定の現地法人の社長として早ければ11月から駐在する予定です。

インターンシップで持ち帰った情報は、実際に現地で走り回りながら収集した生きた情報であるため、会社では非常に重宝して貰えました。特に現地人と日本人との労働に対する考え方のギャップについてある程度理解する事ができたため、設立予定の現地法人において現地人を雇用して行く上で、起こりうる雇用問題に対して間違い無く役に立つと思いました。また、インターンシップの経験を通じて日本人を客観的に見る事ができる様になった事も自分にとっては収穫でした。

インターンシップが終了してからも、同期生とは情報交換や意見交換を未だに行っており、異業種の方の知識や意見が必要となった時にとても役に立っています。例えば、現地法人開設に関して言うと、その際のコンサルティング会社は、インターン同期生に紹介してもらいました。その他、ジェットロに就職した同期生とその上司を訪ねて話を伺いに訪問したり、今年度派遣されるインターン生の方と11月にベトナムで仕事でお会いする約束もあり、このインターンシップ事業を通じて得た人間関係がどんどん広がっている実感があります。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

参加される側の目標観次第とは思いますが、旅行や留学では体験する事のできない沢山の体験や発見があると思います。HIDAの方々を始めとしたフォロー体制も出国前から滞在中、帰国後まで万全となっているため、お勧めできると思います。

現在の活躍の様子



ベトナム新事務所となる物件探し中の風景

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014年度	インターン番号	KB1103	タイプ	公募型
派遣国	ベトナム社会主義共和国		派遣都市	ホーチミン	
受入機関	Institute of Management and Technology Promotion (IMT)				
受入機関概要 (事業内容等)	従業員数5名。主に製造業の運営管理に焦点を当てた活動を実施。パートナーである外部スタッフも活用し、品質管理(5S、改善等)についてのコンサルティング、セミナー等を提供している。				
派遣期間	2014年9月9日 ~ 2014年12月6日				
現在の所属先	一般財団法人 日本品質保証機構		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	企画部 企画課・国際課		所在地	東京	
区分	中堅企業		性別	女性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

所属組織のベトナム進出を促進するため、本インターンシップに参加してみないかと上司から話があったのがきっかけです。当時入構して2年に満たなかったため不安もありましたが、色々なことを学べる良い機会だと思い応募を決めました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

主に、ベトナムの品質管理体制に関する調査や、品質管理に関するイベント運営のサポートを行いました。企業訪問等を通じて、品質管理のサービスを必要とする日系・ベトナム企業の生の声を聞くことができました。また、品質管理(計測器の校正やJIS認証等)について、受入機関とのコラボレーションの可能性についてディスカッションを行いました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

派遣当時、入構2年未満ということもあり所属組織のサービスに関する深い知識がない状態でした。しかし、企業訪問や展示会で企業の方々と接していく中で、現地の日系・ローカル企業は品質管理に対してどのような悩みがあり、どのようなサービスを求めているのかを知ることができ、更に所属組織のどのようなサービスでその悩みを解決することができるのかを同時に学ぶことができました。インターンシップは、このようなことを実践的に学べるとても良い機会であったと思います。

インターンシップ風景



DUYTAN Plasticsへの訪問



日本で研修を行うベトナム人に向けた日本紹介プレゼン風景

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

私は企画部国際課に所属しており、帰国後もベトナム進出のための事前調査やJETRO部品商談展示会への出展のため、何回かベトナムに出張しています。

インターンシップ中は色々な経験をしてきましたが、中でも私が一番活きていると思うのは、受入機関のスタッフと良い関係を築き上げられたということです。

現在、受入機関と共催でベトナムで製造業の品質管理向上を目的としたセミナーを開催する計画があり、その主担当として業務を進めています。受入機関とは初めての共催セミナーとなるため、最初は協力を承諾してもらうための提案書を作り、受入機関に送りました。受入機関は、「毎年HIDAインターンシップを通じて研修生も来てくれ、色々協力してもらいありがたいと思っているので」と快く承諾してくれました。それからは、セミナー開催までの段取り等の打合せのため、メールやWEB会議でやりとりを行ったり、ベトナムに出張して顔を合わせてミーティングしたりしています。

インターンシップで3か月間受入機関のスタッフと共に過ごしたからこそ、日本とベトナムで離れていても仕事をしやすく、ここまでスムーズに来れたと思っています。

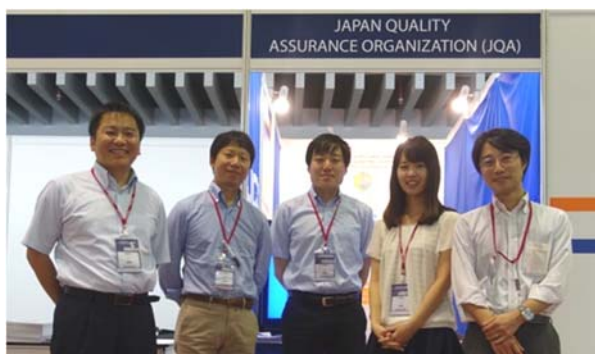
ビジネスや業務上協力する上で特に大切なのは、お互いの信頼関係だと思います。完璧な信頼関係を築くのは難しいことですが、インターンシップで受入機関と良い関係を築けたことが、帰国後も業務に好影響を与えていると実感しています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

参加する前は様々な不安もあると思いますが、参加してしまえば何とかせざるを得ないので、もし迷っている方がいれば思い切って参加することをお勧めします。インターンシップ中は目の前のことを必死でこなすことになると思いますが、環境適応力や問題解決能力を高める絶好の機会だと思います。

特に海外滞在の経験がない方にとっては、日本を客観的に見られる機会でもあるので、是非挑戦していただきたいです。

現在の活躍の様子



ホーチミンにおけるJETRO部品
商談展示会への出展

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014年	インターン番号	TA1031	タイプ	提案型
派遣国	タイ王国		派遣都市	サムットプラカーン	
受入機関	RS CANNERY COMPANY LIMITED				
受入機関概要 (事業内容等)	ツナ缶詰、レトルトパウチ食品の製造				
派遣期間	2014年9月3日 ~ 2015年3月1日				
現在の所属先	株式会社ホテイフーズコーポレーション		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	販売部 東京支店		所在地	東京都	
区分	中小企業		性別	男性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

受入機関は弊社製品の委託生産をおこなっており、コミュニケーションの円滑化と強固なコネクションを獲得するために製造技術、品質管理、販売促進に関する基礎知識を習得する機会を求めていました。また、今後更なる海外展開促進を図るために、新商品開発に関わる知識および情報を収集する必要があり、インターンシップに参加しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

ツナ缶詰の生産関連の業務を幅広く確認・検査業務を体験するとともに、チェックシート等から情報整理しました。また、新商品の生産が立上げとなったため、スペックの確認、値段の設定・交渉、ブランドオーナー来客対応、生産立会い等の一連の業務を体験することができました。さらに、容器サプライヤー視察や現地での営業商談への同行と、幅広い活動ができました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

海外における製造現場、品質管理、新商品立上、商談等を実際に体験できたことで、今後私が海外事業に携わっていくための基盤を成形ができたと感じています。また、今回のインターンシップのコネクションをきっかけにして「CP ALL」というタイのセブンイレブンと商談をおこない、カタログ販売を開始することができたことで、自信を深めることができました。

弊社はタイ国に子会社をもっており、タイ人とのコミュニケーションは重要です。インターンを通じてタイ人の気質を感じることができたこと、タイ語の習得ができたことにより、コミュニケーション能力を高めることができました。また、異文化への対応を経験したことは、タイ国以外での業務にも必ず役に立つと確信しています。

インターンシップ風景 ①



製品検査の様子



打合せの様子

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

帰国後、私は東京支店に異動となりましたが、インターンシップにおいて現地で学んだ製造過程や、現地での品質管理の知識を武器にし、日々営業活動をしています。

営業活動の中で、お客様(バイヤー)は製造工程や、品質管理などの質問をよくされます。私は現地で実際に見て、作業をして、学ぶことが出来ましたので、相手に詳しく説明できています。

他にもインバウンド消費が進む流れで、現地で多少上達した英語を利用し、簡単な英訳や和訳の業務もするようになりました。インターンで海外から日本に輸出する立場から物事を見ることで自身の知識基盤ができたので、これから日本から海外への輸出業務が増えていく中での業務にもスムーズに行えるように思います。

まだ、帰国し約半年しか経っていないため、すべてを活かしきったわけではないですが、これから徐々に自身の業務に活かしていきます。可能であれば海外事業室で働き、インターンシップでの経験をフルで活用し海外とのやり取りをしていきたいと考えています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

今まで海外で生活してきた方、留学されていた方、またはまったく海外へ行かれたことない方でも必ずよい経験を積むことが出来ます。また、JETROやHIDAの皆さまのバックアップもあり、安心して活動に取り組むことが出来ます。迷っているならばチャレンジしてみてもいいのではないでしょうか。There is no reason not to follow your heart.

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014	インターン番号	KB1056	タイプ	公募型
派遣国	バングラデシュ人民共和国			派遣都市	ダッカ
受入機関	Healthcare Pharmaceuticals Limited (HPL)				
受入機関概要 (事業内容等)	元スイスの大手医薬品メーカーRocheグループで、現在は完全独立している企業。 バングラデシュ国内の製薬会社の中で有数の成長率を誇る。海外展開にも積極的。				
派遣期間	2014年9月1日 ~ 2014年11月27日				
現在の所属先	東北大学大学院		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	医工学研究科		所在地	宮城県	
区分	学生		性別	男性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

大学4年間と、大学院の数カ月で学び身に付けたことを武器に、国外企業の中でどのように働くことができるのかという、漠然とした不安を実体験を通して実感することのできる機会だと考えたからです。

研究内容が医療デバイスであることから、医師と関わる機会をもてる企業の中から、特にアジア最貧国といわれるバングラデシュの医薬品メーカーであるHPLを派遣先として志望しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

3カ月の派遣期間のうち、前半の1カ月半は本社各部署において事業内容に関する研修、及びダッカ市内5つの病院を見学し医師と対話の機会を持ちました。後半は生産工場では品質管理・品質保証のシステムや取り組みに関して研修を受けたのち、新製品開発部署において研究開発を行う現地研究員から指導を受けました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

アジア最貧国とは言われるものの、バングラデシュ国内のエリートとして誇りを持って仕事に取り組み、真面目に一層の成果や成長を求めるエンジニアや研究者達からレクチャーを受けるだけでなく、時には話し合いの場を持つことで、海外のトップ層と働くという未知の不安を取り払うことができました。また、アカデミックの学会などでは会うことがないような、新興国出身の優秀な研究者のレベルの高さに非常に刺激を受けました。

特にダッカ市内の現地病院の各病棟を毎日見学して回る中で、予想を超えた医療機器の充実度に驚くと同時に、医療インフラが不十分なことによる治療ができない状況に無力感を覚えたことは忘れることができません。今後のキャリアを考え直すことが容易な時期に、このような体験をすることができたことは、一生の財産だと確信しています。

インターンシップ風景



ダッカ市内の病院の熱症病棟を見学した際



生産工場にて品質管理に関して学んだ際

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

インターンシップを通じて、国内外の非常に優秀な方々と関係を持つことができ、モチベーションを高く持って成長する一つの大きな機会になりました。大学の研究室で自身の研究に没頭するだけでなく、自分を感化してくれた友人たちが今をどう生きているのかを知ることは継続してモチベーションを保つ一つの要因となっています。

インターンシップに参加して得た最大の成果は、実際に仕事をする中で日本人として、研究者としての自分を全く別の視点を持った海外の上司や研究者に評価してもらったことだと考えています。彼らと時にぶつかり合うことを通して、より確信を持てるようになった点や、改めた考え方は少なくありません。したがって、現在は就職活動や海外の研究者とお話をする中で、実体験に基づいた見解を武器に自信と説得力を持って話し合いの場に参加することができています。

現在は、日系の医療機器メーカーから内定を頂いており、来年度からは研究開発部門への配属が決定しています。インターンシップ中に新興国でのビジネスを強く意識していたため、ビジネスの観点にも長けた研究者として評価していただいたのだと理解しています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

私は、その時々所属する似通った価値観を持った人々からの評価だけではなく、全く異なる価値観を持った人に評価される必要があると考えています。そのために国内外で出来ることは身の回りに沢山あると思います。中でも本事業は事前の準備期間を含め、具体的な目的を持って参加することができ、インターンシップ中だけではなくその前後期間で非常に意識の高い人々と関係を持つことができます。加えて現地で肉体的・精神的強さも身に付けられると思いますよ。

現在の活躍の様子



Falling Walls Labの予選会に参加した際

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014	インターン番号	TA1006	タイプ	提案型
派遣国	マレーシア			派遣都市	セランゴール
受入機関	Mandarin Opto-Medic Sdn. Bhd				
受入機関概要 (事業内容等)	眼科医療機器販売				
派遣期間	2014年10月1日 ~ 2014年12月26日				
現在の所属先	(株) メニコン		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	海外本部企画管理部		所在地	愛知県	
区分	大企業		性別	男性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

上司がグローバル人材として私を成長させるために良い機会と判断し応募。またマレーシアでの商習慣・文化の把握、現地の代理店との関係強化を図り、弊社商品の売上拡大につなげたいとの思いからインターンシップに参加しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

実際に弊社の商品を納めている得意先に訪問し我々の商品評価、販売方法のアドバイスを戴きました。また受入機関と今後の売上拡大に向けての課題、解決策等を頻繁に話し合いました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

現地代理店との関係強化により現地担当者とのスムーズなコミュニケーション、得意先を訪問することにより現地の状況をより詳細に把握できました。

この市場調査は今後のビジネスに大きく貢献してもらえと思っています。

マレーシアでは英語でのやりとりでしたが、語学力向上にもつながりました。

インターンシップ風景



得意先訪問



大学にて商品アピール

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

帰国後会社からはマレーシア担当として指名されました。

その後もマレーシアへ長期出張し、代理店との打ち合わせ、得意先への訪問などを通じてより理解を深めました。インターンシップ後からはマレーシアでの売り上げも増加しています。

またインターンシップで培った代理店との関係性も業務をスムーズに進めるに当たり非常に役立っています。

マレーシアでのさらなるビジネス拡大を探るため、駐在員事務所を設立することになり12月から事務所代表として勤務することとなりました。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

このインターンシップは、他国でのビジネス文化を学べる非常に貴重な機会です。

海外に出るとうまくいかないことも多々ありますが、それを乗り越えた時自分が大きく成長できます。

HIDAの方々からも万全のサポートをしていただけますので安心してインターンシップに集中できる点も魅力的な部分だと思います。

現在の活躍の様子



事務所で作業中